
風都国立大学付属高等学校（仮）

奇跡的な人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風都国立大学付属高等学校（仮）

【ISBN】

N2575X

【作者名】

奇跡的な人間

【あらすじ】

仮面ライダー や さまざまなアニメが混合・融合した世界。もちろん、この世界も独立した世界であり、それぞれの世界の人物もいれば、この世界にしかいない人物もいる。現在、仮面ライダー キバ、仮面ライダーウ、仮面ライダーアギト、バカとテストと召喚獣が混合・融合しています。

舞台・用語（前書き）

タイトルは仮なので、この小説をお読みなつてくれた方は、いいタイトルを感想に書いて教えてください。

舞台・用語

舞台

ふうと

架空の都市。

街の至るところに様々な形状の風車が回る、通称「エコの街」。「ふうとくん」という街のマスコットキャラクターが人気者である。この町の名物は、普通のラーメン屋の屋台で売っている、巨大なナルトが特徴的な風麺。

自称・ハードボイルド探偵の翔太郎を始め、多くの住民に愛されている一方、裏ではミュージアムやそのほかの悪の組織・怪人が暗躍するための活動拠点のような都市として、暗黒的な側面も持つており、近年ガイアメモリによる犯罪も増加している。

風都国立大学付属高等学校（ふうとこくりつだいがくふぞくこうとうがつこう）

主人公やメインキャラが通る高校。制服は決まっておらず、私服のものや、学生服、ブレザーを着ている人など服装が適当な学校。学校の電気は全て風力発電。ガイアメモリを所有する人もいれば、怪人がいる、奇妙な学校。反面、都市伝説の仮面ライダーがいるという噂がある学校。左翔太郎も通っていたらしい。

風都国立大学付属中学校（ふうとこくりつちゅうがく）

風都国立大学付属の中学校。偏差値はそれなりに高い。

鳴海探偵事務所

自称・ハードボイルド探偵の左翔太郎が勤める（？）探偵事務所。

パツとみ中学生の鳴海亞樹子が所長を勤める。事務所の社員である左翔太郎とフイリップがこの町の都市伝説の仮面ライダーであることを知っている人はほんのわずか。

ガイアメモリ

USBメモリ型の生体感応端末。人をドーパントにしたり、仮面ライダーにしたりすることができる。

ドーパント

装着者が自分の肉体にガイアメモリ内の「地球の記憶」を挿入し、その記憶を宿した怪人となつた姿。

仮面ライダー

風都に現れる怪人をたおすバイクのりの戦士。今のところ判明しているのは仮面ライダーウのみ。これからも増える予定。

舞台・用語（後書き）

前述のとおり、タイトルは仮なので、この小説をお読みなつてくれた方は、いいタイトルをかね（ry

キャラ設定（前書き）

キャラ設定キタ━━━！（宇宙キタ━━━風に）

キャラ設定

風都国立大学付属高等学校

登場確定陣

松風翔平「登場確定」

今作の主人公。この世界にしか存在しない人間。風都国立大学付属高等学校に通う生徒。クラスは2・B。個性的な人間が多い学校の中では常識人。成績優秀で容姿も良く、友達思いの優しい性格のため、彼への信頼も厚く、友達も多いためクラスの人気者。自分の通う学校の都市伝説を信じてはいなかつたが、同じクラスのフイリップが仮面ライダーWに変身したのを見て以来、鳴海探偵事務所に通い始め、Wのサポートをするようになる。園咲若菜のファン。フイリップとは当初余り相手にされなかつたが、自身も園咲若菜のファンということをフイリップが知つてからは、良く園咲若菜のことについてはしたりしている。如月弦太朗と城島ユウキとは幼馴染。

フイリップ「登場確定」

仮面ライダーWの世界にもいた魔少年。風都国立大学付属高等学校に通う生徒。クラスは松風と同じ2・B。鳴海探偵事務所の居候。仮面ライダーWに左翔太郎と共に変身する。Wの右側。フイリップという名前は本名ではない。記憶喪失。彼が学校へ行く理由は特になく、ただ探偵事務所の自称・所長の鳴海明子が行けといつてゐるだけであつて、本人は乗り気ではない。授業中や休み時間では真っ白な本を読んでゐるため、周囲から不思議くんと認識されている。時々昼寝をしてゐるよう見えるが、それは翔太郎とWに変身するときに意識が翔太郎に行くため、体は空になるからである。学校では怪しまれないため（すでに別の意味で怪しまれてるが）、翔太郎の弟を装い、「左将暉」ひだりまさきと名乗つてゐる。しかし、クラスメイトからは

偽名ではなく、愛称のフィリップで呼ばれている。園咲若菜のファン。

クイーン「登場確定」

仮面ライダーWの世界でエリザベスとよく一緒にいた人。本名は「板野友美」。クラスは1・A。趣味はカラオケで、エリザベスとよく一緒にいく。歌唱力はプロ並み。翔平に憧れを抱いている。

エリザベス「登場確定」

仮面ライダーWの世界でクイーンとよく一緒にいた人。本名は「河西智美」。クラスはクイーンと同じ1・A。趣味はカラオケで、クイーンとよく一緒にいく。歌唱力はプロ並み。フィリップのファン。

紅渡「登場確定」

仮面ライダーキバの世界にもいたこの世アレルギーの患者。人間とファンガイアのハーフ。クラスは3・A。この世界ではこの世アレルギーではない模様。

紅正夫「登場確定」

仮面ライダーキバの世界にもいた未来人。約20年後の未来から来た紅渡の息子。クラスは2・B。翔平とは親友。

登場未定陣

如月弦太朗「登場未定」

仮面ライダーフォーゼの世界にもいたトラッシュ。風都国立大学付属高等学校の転校生。クラスは2・B。転校初日、学校へ行く途中フィリップが一年生からラブレターをもらっているのを見ていて、フィリップが興味深いと無神経なことに腹を立て、フォーゼの第1話の賢吾とのやり取りみたいになつた。リーゼントに短ラン・Tシ

ヤツ・ボンタンの学生服を着用。その格好はまるで一昔前の不良の格好。そして、教室に入ってきて、「この学校の生徒全員と友達になる」と宣言する。翔平や城島ユウキとは幼馴染。風都国立大学付属高等学校にはヒエラルギーが無いため、この世界ではトラッシュ呼ばわりはされない。

城島ユウキ（じょうじまゆうき）「登場未定」

仮面ライダー・フォーゼの世界にもいた宇宙オタク。クラスは2・B。翔平や弦太朗とは幼馴染。翔平を「翔くん（翔太朗が風都イレギュラーズから翔ちゃんといわれるため、こちらはくん付けになつている）」、弦太朗を「弦ちゃん」と呼ぶ。

乾巧（いぬいたくみ）「登場未定」

仮面ライダーファイズの世界でファイズとして戦つていたオルフェノク。クラスは3・A。

園田真理（そのだまり）「登場未定」

仮面ライダー・キバの現代編でクイーンの称号を手に入れた人にそつくりな人。クラスは1・B。

風谷真魚（かざやまな）「登場未定」

仮面ライダー電王の世界にいたテンライナーでアルバイトをしている客室乗務員の人によく似ている。クラスは2・C。

泉比奈（いずみひな）「登場未定」

仮面ライダー・オーズの世界にもいた怪力ブラコン。クラスは2・B。

野上良太郎（のがみりょうたろう）「登場未定」

仮面ライダー電王の世界にもいた運勢最悪のシスコン。クラスは2・B。

風都国立大学付属高等学校、教職員

上原千恵「登場未定」

翔平達のクラスの担任。数学担当。

木村京平「登場確定」

英語教師。生活指導主任教師。

風都国立大学付属中学校

天道樹花「登場未定」

仮面ライダーカブトの世界にもいた「天の道を往き、樹と花を慈しむ少女」。クラスは2-C。兄がいる。野村静香とは友達。

野村 静香「登場未定」

仮面ライダー キバの世界にもいたドラムが得意なバイオリニスト。クラスは2-C。天道樹花とは友達。バイオリンを習うために紅家によく出入りする。

鳴海探偵事務所

左翔太郎「登場確定」

仮面ライダーWの世界にいた人と同一人物のハーフボイルド。ソフト帽を愛用している。自称・ハードボイルドだが、中身はよくも悪

くもお人好しの三枚目であるため、周囲に人々からは、「ハーフボイילד（半熱君）」呼ばわりされている。しかし探偵術、護身術はそれなりに優秀であり、不測の展開では機転を利かせることが多く、探偵には向いている。風都では非常に幅広い交友関係と情報網を持つているため、街の人々からの信頼は厚い。仮面ライダーWでは、名前とのおり、左を担当。ビギンズナイトでは、師匠である鳴海壮吉から「フレッシュのことを、「ガイアメモリの悪事に利用される高校生」と聞いていたため、フレッシュを無理矢理高校に行かせるきっかけを作ってしまった。風都国立大学付属高等学校に通っていた。

フレッシュ「登場確定」

『風都国立高等学校』を参照

鳴海亞樹子「登場確定」

仮面ライダーWの世界にもいた、大阪育ちの人。鳴海探偵事務所の所長兼大家。20歳だが童顔で子供っぽい性格のため、初対面の人からは女子中学生だと思われる。「私、聞いてない！」が口癖。大阪育ちのためか、（スリッパを利用した）つっこみが得意。翔太郎からフレッシュはもともと、「ガイアメモリの悪事に利用される高校生」と聞き、高校生なら高校に行くべきと勝手にフレッシュを学校に行かせた。

OTHER 名護啓介

仮面ライダーキバの世界でもイクサに変身ていた御方。仮面ライダーイクサに変身する。即婚者。

キャラ設定（後書き）

ちなみにこのキャラ設定は仮なので、変わったりもします。
むしろとに更新するのでチェックしてください。
話が進

第01話・Fの戦士／緑と黒の仮面ライダー（前書き）

サブタイトルの通りに、今回Wが出てきます。

第01話・Fの戦士／縁と黒の仮面ライダー

俺には、信じていないものが一つある。ひとつは塾の先生の年。まあ、クラスのみんなも信じていはないが。もうひとつは、都市伝説の仮面ライダー。仮面ライダー、俺の住む風都にたびたび現れ、怪人を倒し、バイクに乗って変える、仮面をつけた戦士。しかも、俺の通う風都国立大学付属高校には仮面ライダーがいるという噂。ただの都市伝説だと思っていた。なのに、まさか実際にクラスメイトが仮面ライダーに変身するのを見るのはな。

昨日、いつもどおり学校に行つたんだ。

木村「はい、stand - up!」

英語の先生は、いつもどおり英語で号令を始めた。

木村「はい・・・礼」

担任の木村は、いまだに英語で礼が言えない。

木村「everyone set down・・・出席をとる、城鳥」

先生が出席をとつてゐる中、話しかけてくるやつがいた。友達の紅正夫だ。

正夫「ねえ翔平、今日カラオケいかない?」

翔平「ん~、わりい。テストの予習しねーといけねーから無理だ。また今度な、」

正夫「ちえつ、翔平いねーと盛り上がらないんだよな、」

今思えば行つてりやよかつたかな、カラオケ。別にテストつて言つてもどうせ中学の応用問題だし。

木村「左、呼んだら返事しろ」
先生が話しかけているのに変わらず本を読んでいるやつがいる。左将暉、通称・フィリップだ。

フィリップ「ブツブツブツブツ・・・ほう、これは興味深い。」

木村「話を聞いているのか」

フィリップ「先生、あいにくあなたの興味のわかない授業を聞くほど、僕は暇じやない、」

木村「なんだと！」

正夫「あ、あ、また始まつた。」

翔平「あいつ、ホント何考へてるんだ？いつも真っ白な本読んでたり、たまに何かつぶやいたり、USBメモリいじついてたり、寝ていたり。」

このときまで、俺はあいつをただの変人だと思っていた。

事件は帰り道に起こつた

帰り道、商店街を歩いていると空からいきなり針が落ちてきた。ギリギリあたりはしなかつたが、あたつていたら体を貫いていただろう。

翔平「なんだ！？」

とつさに空を見上げた。そこにはハチを思わせる怪人がいた（決し

てメ・バヂス・バではない）。

キヤアアアアアアアアアアア！

周囲が驚いて逃げ回っている。

翔平「・・・怪物？」

ハチの怪人「ふん、次ははずさないぞ・・・松風翔平！」

翔平「えつ、何で俺の名前知つて・・・」

ヒュン

また変な針が飛んできた。

翔平「うわ！なんなんだ、あいつ？」

翔太郎「あいつあドーパントだ」

突然、背後から声が聞こえた。そこにはソフト帽をかぶつた探偵風の人がいた。

翔平「あなたは？」

翔太郎「俺か？俺はハードボイルド探偵の・・・左しおう・・・
ぶほつ！」

亜樹子「何言つとるんじや半熱の癖に！あつ、私は、鳴海探偵事務所の美人所長、鳴海亜樹子ねつ！ちなみにこつちはハーフボイルド探偵の左翔太郎、」

翔平「はあ・・・

翔太郎さんが格好をつけながら自己紹介をしているのを、亜樹子さんがスリップを使って豪快に突つ込み、自己紹介を再度始めた。

「 フイリップ 「 そんなことより翔太郎、いくよ? 」

翔平 「 えっ、 フイリップ! ? 」

突如現れたクラスメイトにびっくりした。

翔太郎 「 おっ、 フイリップのクラスメイトか、いやあいぼ . . . じゃなくて弟が世話になつて いるぜ。 」

翔平 「 フイリップのお兄さんなんですか! ? 」

翔太郎 「 ん? あつ、ああ。それより フイリップ、行くぜ 」
そういうと翔太郎さんがダブルドライバーを腰に巻いて、それと同時に フイリップの腰にダブルドライバーが現れた。そして翔太郎さんは黒の、 フイリップは緑の少し大きめのUSBメモリを出した。

ジョーカーメモリ (黒) 「 Joker! 」

サイクロンメモリ (緑) 「 Cyclone! 」

翔太郎・フイリップ 「 変身! 」

変身と叫んだ後、 フイリップはドライバーにサイクロンのUSBメモリをいれた。その直後、サイクロンメモリは翔太郎のドライバーに移動して、 フイリップが倒れた。そしてそれを亜樹子さんが見事にキャッチした。そして翔太郎さんはもう一本のメモリ、ジョーカーメモリを入れた。

ダブルドライバー 「 Cyclone - Joker! 」

翔太郎さんの体を風が包み、そこに現れたのは、右半分緑、左半分黒の戦士だった。

W - C J 「さあ、お前の罪を、数えろ！」

翔平「仮面・・・ライダー？」

俺は無意識にそつづぶやいていた。

第01話・Fの戦士／緑と黒の仮面ライダー（後書き）

蜂のドーパントはメ・バチス・バではありますんが、姿はそつくりです。

第02話・Fの戦士へお前の罪を数えり（前書き）

第2話です

第02話・Fの戦士／お前の罪を数える

前回のあらすじ：

木村「左、呼んだら返事しろ」

フィリップ「……ほう、これは興味深い。」

木村「話を聞いているのか」

フィリップ「先生、あいにくあなたの興味のわかない授業を聞くほど、僕は暇じゃない、」

翔太郎「フィリップ、行くぜ」

ジョーカーメモリ（黒）「Joker!」

サイクロンメモリ（緑）「Cyclone!」

翔太郎・フィリップ「変身!」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker!」

W-CJ「さあ、お前の罪を、数えろ!」

翔平「仮面・・・ライダー?」

俺は無意識にそつぶやいていた。

W - C J 「さあ、お前の罪を、数えろ!」
そういうてWはバトルを始めようとした。しかし、蜂のドーパントは舌打ちをしながら早々に帰つていった。

W - C J 「くそつ、あのヤロー、どこ行きやがつた!」
そういうて翔太郎さんは変身をといた。それと同時にフィリップが起きた。

フィリップ「しかし、あのドーパントは君を襲つていた。となると、犯人は君に恨みを持つているものだね、」

翔平「お、おい。ち、ちょっと待つてくれないか!?」
話の内容が待つたくつかめないですが!?」
突然わけの分からぬ話をして、質問せざるをえねかつた。

翔太郎「ん、ああ、だつたらうちの探偵事務所にこいよ。そこで話してやる。」

翔平「はあ・・・」
といつわけで、

そして秘密基地のような場所に入った。
すげえな、ホワイトボードの数。

鳴海探偵事務所に来た。

翔太郎「まず、あの怪人のことだけだな、あれはドーパントだ。」

翔平「ビーぱんと？」

翔太郎「まず、こいつを見な、」

そういうと、翔太郎さんはパソコンに翔太郎さんやフィリップがWに変身するのに使ったUSBメモリに似たメモリの写真を出した。

翔太郎「こいつはガイアメモリつってな。こいつは地球の記憶を内蔵していく、これを使って変身したのがドーパントだ。」

フィリップ「ちなみに、さつき検索した結果、さつきのドーパントのメモリの名前はビー、蜂の記憶を司っている。」

翔平「いや、普通に見ても蜂って感じしたけどな、それよりアイツなんで俺を襲つたんだ？」

フィリップ「普通に考えると装着者は君に恨みを持っているね。何か心当たりは？」

翔平「んーどうだう、あつなんかわすれているよーな・・・あー

「！」

時計を見た。あと少しで塾が始まる時間だった。

翔平「わりい塾いかねーと、じやな！」

結局塾に遅れたが、自分に恨みを持つものは思いつかなかつた。

そして現在に至る

俺に恨みを持つものねえ・・・つーかうちの高校に仮面ライダーが

いる噂つて確かだつたんだ。犯人見つかつたら「園咲若菜のヒーリングプリンセス」の風都ミステリーツアーにはがき出そうかな、うちの高校に仮面ライダーいるつて。

フィリップ「で、あれから思い当たる人見つけたかい？」

翔平「ん～全く・・・あつ、ひとつ思い出した」

フィリップ「なんだい？」

翔平「いや～実はさあ・・・中学のとき理科の先生が生徒にセクハラしてさあ、俺も好きな先生じゃなかつたからさその先生のパソコンにハッキングしてあの人のばれるとやばいこと校長にメールしたんだよ。まあ、結局その先生の教育職員免許は処分されたらしいけど、」

フィリップ「なるほど、君のせいで人生が終わつた。君に復讐するためにメモリを使つた、か・・・なるほど、条件は完璧だね。後は居場所を検索する必要がある。」

翔平「えつ、どうやつて・・・」

フィリップは地球の本棚に入り、ほじのほんだな犯人の検索を始めた。

フィリップ「キーワードは蜂、セクハラ、中学理科教師、そして・・・

・松風翔平

そういうと、フィリップは真っ白な本を読み始めた。

フィリップ「なるほど、犯人の名前は港文也。みなじふみや彼の住むマンションは・・・」

外から針が飛んできた。外には、ビードーパントがいた。

「せつかく検索したのに、無駄になつたな・・・」

翔太郎「仕方ねえだろ、フイリップ、」

翔平「翔太郎さん？どうしてここに！？」

翔太郎 ああ、それか。きっとジーパントはお前を襲うと思つてな、

「それよりいこう、
翔太郎、」

翔太郎 ああ、フイリップ

サイケロンヌ弐リ - 〇 yūkōronne!

シミガノモリ・Jockey!

翔太郎・二〇一〇・夏・夢島！」

翔平「おつと」

W-CJ「ナイスキャッチだよ」「よっしゃ、行くぜー。」

W - C T 「 「 まあ、お前の罪を数えろーーー！」

ビードーパント「またお前か！」

W - C T 「 そ二、お前達、だよ」 「 だな！」

W とビードーパントが戦い始めた。しかし、ビードーパントは空を飛べるためWは不利だった。

W - C T 「 だつたらこいつだ！」

トリガーメモリ「 Trigge r！」

ダブルドライバー「 Cyclone - Trigger！」

W の左半分の色が黒から青に変わった。そして胸元にトリガーマグナムが現れた。

W - C T 「 よつと」

ビードーパント「 つわつ、そんなのありかーーー？」

W - C T 「 翔太郎、メモリブレイクだ、」 「 ああーーー！」

トリガーマグナム「 Trigger - MaxiShimmyDrive！」

W - C T 「 トリガーエアロスターーーー！」

そう言ってトリガーマグナムから緑色の小型竜巻を連続発射され、ビードーパントを吹き飛ばした。そしてドーパントの変身が解け、メモリがこなこなに碎けた。

港文也「う、うう・・・」

翔平「ええ・・・と

港文也「お前のせいで、俺は・・・」

翔平「・・・・・」

港文也「俺は、お前よりもまじめに生きていたのに、どうして俺はあんな惨めな仕打ちにあつたんだ・・・俺は！」

翔平「確かに、俺は罪を犯した。だが、あんたも罪を犯した、違うか？」

港文也「うう・・・」

翔平「俺の罪はハッキングをしてアンタの情報を外にもらしたことだ。俺は俺の罪を数えたぞ。今度はあんたの番だぜ。さあ、お前の罪を数えろ、」

港文也「な・・・に

港文也は力尽きてその場に倒れた。

そして

事件は何か丸く収まった。しかし、まさかあの都市伝説の仮面ライダーとうちの学校の噂が両方とも事実だったとはな・・・ハガキ・・・出すか

正夫「なあ、翔平今日こそカラオケ行こうぜー。」

翔平「ああ、F i n g e r o n t h e T r i g g e r 歌おうぜ」

渡「ダメだよ正夫、家帰つて宿題やらないと、」

俺と正夫がカラオケ行く話をしていると、正夫の兄さん、渡さんが止めた。

正夫「分かったよ、パパーん・・・」

パパン？俺はいつも思っていた。兄弟なのになぜパパと呼ぶのか。

第02話・Fの戦士へお前の罪を数えろ（後書き）

今回の港文也とのやり取り、鳴海社吉とマシのやり取りをまねしました。

第3樂章・NEWキバ・ウェイクアップ！（前書き）

今回、正夫のキバが出てきます

第3楽章・NEWキバ・ウェイクアップ！

前回のあらすじ：

翔太郎「まず、あの怪人のことだけどな、あれはドーパントだ。」

翔平「どーぱんと？」

翔太郎「こいつはガイアメモリつってな。こいつは地球の記憶を内蔵していて、これを使って変身したのがドーパントだ。」

フィリップ「ちなみに、さつき検索した結果、さつきのドーパントのメモリの名前はビー、蜂の記憶を囁つてている。」

翔平「いや、実はさあ・・・中学のとき理科の先生が生徒にセクハラしてさあ、俺も好きな先生じゃなかつたからさその先生のパソコンにハッキングしてあの人のばれるとやばいこと校長にメールしたんだよ。まあ、結局その先生の教育職員免許は処分されたらしいけど、」

フィリップ「なるほど、君のせいで人生が終わつた。君に復讐するためにメモリを使った、か・・・なるほど、条件は完璧だね。後は居場所を検索する必要がある。」

フィリップ「キーワードは蜂、セクハラ、中学理科教師、そして・・・
・松風翔平」

「 フィリップ「なるほど、犯人の名前は港文也。みなとふみや」彼の住むマンションは・・・」

バリイイイイイン！！

外から針が飛んできた。外には、ビードーパントがいた。

「斐リップ博士は、かく検索したのに、無駄になつたな……」

トリガーメモリ「Trigger!」

ダブルドライバー「Cyclone-Trigger」

W - C T 「翔太郎、メモリブレイクだ、」「ああ！」

トリガーマグナム「Trigger!」マキシマムドライブ!」

W
- C T - トリガーエアロバスター！」

港文也「俺は、お前よりもまじめに生きていたのに、どうして俺はあんな惨めな仕打ちにあつたんだ・・・俺は！」

翔平「確かに、俺は罪を犯した。だが、あんたも罪を犯した、違うか?」

港文也「うつ・・・」

翔平「俺の罪はハッキングをしてアンタの情報を外にもらしたことだ。俺は俺の罪を數えたぞ。今度はあなたの番だぜ。さあ、お前の罪を数えろ、」

港文也「な・・・に」

正夫「なあ、翔平今日こそカラオケ行こうぜー。」

翔平「ああ、*Finnger on the Trigger* 歌おうぜ」

渡「ダメだよ正夫、家帰つて宿題やらないと、」
俺と正夫がカラオケ行く話をしていると、正夫の兄さん、渡さんが止めた。

正夫「分かったよ、パパン・・・」

パパン？俺はいつも思っていた。兄弟なのになぜパパと呼ぶのか。

そして現在、紅家

翔平「だからこれはこうだつて！」

正夫「えー！そつぱりわからないよー。」

翔平「おい、早く宿題終わらせねーとカラオケいけねーぞ」

まつ、結局こいつ（正夫）の宿題終わらせるのに6時までかかってカラオケにいけなかつた。どうして渡さんは勉強できるのに、こいつは全くなんだろう。

翔平「それじゃあ、明日な

正夫「じゃね

渡「またね」

そして次の日

翔平「よつ、フィリップ」

フィリップ「何だ君か。僕は本を読むのに集中したいんだ」

翔平「なあ、なんでお前いつも真っ白な本読んでるんだ？」

フィリップ「そつか・・・君にはこの本の文字が見えないのか・・・なあ松風翔平、君はなぜ君だか分かるかい？」

翔平「・・・哲学か？」

フィリップ「まあいいか、君に聞いたのが間違いだったかもね、」

翔平「おい、それってどういっ

正夫「翔平！」

翔平「ん、どうした正夫？」

正夫「パパンが今日はカラオケ行つてい言つて！」

翔平「そらか、じゃあクイーンとエリザベスでも呼ぶか？」

正夫「おつ、いいね！」

そして放課後

正夫「ああ、カラオケ久しぶりだな！」

翔平「ここらへん、テストばっかりだつたしな、ストレスたまつちまつよ」

エリザベス「でもそのぶん今日はたまつてているストレスをだしましょうよ！」

翔平「そうだな、クイーンも楽しもーゼ！」

クイーン「はつ、はい！翔平センパイ！」

正夫「あれ？もしかして緊張してーるー？」

クイーン「そ、そんなことないですよー何言つているんですか正夫さんー！」

正夫「ふーん」

翔平「おい、それよりカラオケ行くぞ。この時間帯は込んでるから

急がないと

そう言つて俺たちはカラオケに行き始めた。

でも次の瞬間・・・

ドカアアアアン！！

エリザベス「きやーな、何！？」

俺たちの前でいきなり爆発が起きた。

俺たちの前にステンドガラスのような体をしたウサギを思わせる怪人がいた。

翔平「みんな、どうやらカラオケは中止のようだ、」

あれはいつたい何なんだ！？ドーパント・・・とは違うみたいだし。

ウサギの怪人「ライフエナジー、いつただきまーす！」

そういうと、怪人は爆発を見てよつてきた野次馬の後ろの空中に2本の巨大な牙のような物体が現れて、野次馬の肩の近くにささつた。

野次馬「うわっ、なにをするんだやめ・・・」

野次馬が断末魔を残し、体が透明になり、

・・・消えた。

そして怪人はゆっくりとクイーンに近づいた。

クイーン「い、いや！」

クイーンはさつきの爆発のせいで足をくじいていた。

翔平「間に合え！」

俺はクイーンのところに走って、クイーンをかばった。しかし、次の瞬間。

ウサギの怪人「ぐああ…」

?なんだ、いったい何が?そこには仮面ライダーイクサこと名護路介がいた。

名護「ファンガイア…その命、神に返しなさい…」

イクサンツクル「レ・デ・イ」

ファーン…ファーン… イクサンツクルの待機音

名護「変身!」

イクサベルト(イクサンツクル)「フィ・ス・ト・オ・ン」

キイーン!ヒューン…ピロロ…キュイッピルルッジャキイーン…!

イクサ変身音

イクサはセーブモードからバーストモードになった。

イクサB・M「ファンガイア、その命、神に返しなさい!」

イクサはイクサカリバー・カリバーモードをとりだし、ウサギのファンガイアに攻撃を仕掛けた。しかし、

ウサギファンガイア「うわあああ！なんてなー！」

イクサB・M「何！？」

背後から複数のウサギファンガイアと親玉らしき馬のファンガイアがイクサを攻撃した。そのせいで、イクサの変身が解け、ベルトも取れた。

名護「くつ、う・・・」

ウサギファンガイア「アンタ確か、裏切り者のキングの仲間だったよなあ。そいつを殺せるとは、うれしい誤算だぜ！」

翔平「絶体絶命・・・ね」

そのとき、田の中に10ほど近くに落ちているイクサナックルベルトを見た。いまはそうするしか・・・ないか！

翔平「ちょっとここで待つてな」

クイーン「え、」

翔平「よしと」

名護「君！」

翔平「やり方はさつき見ていた、こうすりやいいんだな、」
俺はイクサナックルを手のひらに近づけた。

イクサンックル「レ・デ・イ」

ファーン…ファーン… イクサンックルの待機音

翔平「変…・・・身！」

イクサンックル（イクサベルト）「フィ・ス・ト・オ・ン」

キーンー・ヒューン…ピロロ…キュイッピルルッジャキーン…!

イクサ变身音

イクサS・M「なるほど…・・・意外と着心地はいいな。」

ウサギファンガイア「お前に俺たちをたおせるか？」

イクサS・M「やるひきやないつしょ

正夫「翔平！」

イクサS・M「正夫！？」

正夫「俺もいっしょに戦うぜーーーい、キバちゃん！」

キバットバットエーワーイ、祭りだ、祭りだ！」

ガブッ！ キバットエーワーイが正夫の手をかんで魔王力を注入した音

そしてそして正夫の姿はみるみるNEWキバ・キバフォームの姿に

正夫「変身！」

なつた。

イクサ S - M 「正夫も・・・仮面ライダー！？」

NEWキバ 「いこつ、 翔平！」

イクサ S - M 「あ、 ああ！」

第3樂章・NEWキバ・ウェイクアップ！（後書き）

名護さん、全く活躍ねえ・・・・

正夫は設定が全く存在しないので、自分で色々設定しました。

第4樂章・Withフレンズ・2人のライダー（前書き）

キバ編の後編です

第4楽章・withフレンズ・2人のライダー

前回のあらすじ：

フィリップ「なあ松風翔平、君はなぜ君だか分かるかい？」

翔平「・・・哲学か？」

フィリップ「まあいいさ、君に聞いたのが間違いだつたかもね、」

翔平「おい、それってどういう

正夫「翔平！」

翔平「ん、どうした正夫？」

正夫「パパンが今日はカラオケ行つてい言つて！」

イクサB・M「ファンガイア、その命、神に返しなさい！」

翔平「絶体絶命・・・ね」

翔平「やり方はさつき見ていた、いつもりやいいんだな、」

イクサンックル「レ・デ・イ」

翔平「変・・・身！」

イクサンツクル（イクサベルト）「フィ・ス・ト・オ・ン」

イクサS・M「なるほど・・・意外と着心地はいいな。」

正夫「俺もいつしょに戦つぜーーい、キバちゃん！」

キバットバットエバ世「わーい、祭りだ、祭りだ！」

ガブツ！ キバットエバ世が正夫の手をかんで魔王力を注入した音

正夫「変身！」

そしてそして正夫の姿はみるみるNEWキバ・キバフォームの姿になつた。

イクサS・M「正夫も・・・仮面ライダー！？」

NEWキバ「いこう、翔平！」

イクサS・M「あ、ああー！」

そして

ウサギファンガイア「よつと」

イクサS・M「すばしつ！」いやローだなーーお前にはコイツだ！」

俺はイクサカリバーをガンモードに変形し、ウサギファンガイアたちの方向に乱れうちをした。

ウサギファンガイア「うわああああ！」

「イクサS-M」「効果観面つてか、お前達みたいなうざいハエにはいい殺虫剤だな」

一方正夫の変身したNEWキバ・キバフォームはホースファンガイ
アと戦つていた。

ホースファンガイア「貴様、もしかして裏切り者のキングの弟か？」

・ 息子だ！

そういうてNEWギバはガルルフェツスルを出した。

「イーピイツ！」
キバットエバ世「ガルルセイバー！ピリリ・・・ピイーー！ピイイ

そしてキャッスルドランの中では・・・

ドッガ「・・・誰だ？」

バツシヤー「僕じやない」

ガルル「・・・俺だ」

そういうとガルルの姿はあるみる「腕組みをした狼男」の形をした
彫像になつた。

そしてガルルはキャッスルドラン射出され、それをNEWキバは見

事に左手でキヤツチし、
彫像は剣に変形した。

イクサS・M「なんだありや！？」もしかしてこれにも・・・あつた！」

俺はとつさにイクサベルトを見た。腰にはガルルフェッスルと同型のフェイクフェッスルをとつてイクサベルトに入れた。

イクサベルト「ガ・ル・ル・フ・エ・イ・ク」

「ピリリ・・・ピイーー！ピイイイー！ピイツ！」

イクサベルトからガルルを呼ぶときと同じ音が鳴ると、NEWキバの手にあつたガルルセイバーがイクサS・Mの手元に来た。

NEWキバ「ちょつ、ちょつと翔平！なにするんだよ！」

イクサS・M「悪い、悪い・・・それよりこれ、スゲー切れ味いいな」

そういうながら近くにいたウサギファンガイアをガルルセイバーで切つてみた。

NEWキバ「あーもーいいよ、さてキバちゃん、そろそろ決めるよ！」

キバットエヴ世「オーケー正夫、そろそろ祭りの終わりだ！」

NEWキバはウェイクアップフェッスルを取り出し、キバットエヴ世に吹かせた。

キバットエヴ世「ウェイクアップ！」

そういうとキバットエヴ世がベルトから外れて、NEWキバの右足の拘束具を外した。

NEWキバ「いくぜ！」

そういうとNEWキバは空高く飛び、新・ダークネスムーンブレイクをホースファンガイアに放った。

ホースファンガイア「うあああああ！」

ホースファンガイアはさらに全身がステンドガラス状になり、粉々になつた。そこから光の球のようなものが出てきた。

イクサS・M「へえ、すげえな・・・俺もやってみるか」

俺はナックルフェッスルを取り出し、イクサベルトに入れた。

イクサベルト「イ・ク・サ・ナ・ツ・ク・ル・ラ・イ・ズ・ア・ツ・
ブ」

イクサS・M「ナックル？ナックルってことは変身に使つたこれだ
な」

俺はイクサナックルを取つて複数のウサギファンガイアに向けた。

イクサナックルから電圧が出てきて、ファンガイア全員に直撃した。そしてウサギファンガイアたちもホースファンガイアのように全身がステンドガラス状になり、粉々になつた。そして、光の球のようなものが出てきた。

イクサS・M「一件落着だな、」

そう言つてベルトを外し、クイーンたちの近くに行つた。

翔平「大丈夫か、」

クイーン「は、はいなんとか、」

エリザベス「先輩達やあの人は？」「エリザベスのいってるあの人とは名護さんの事である

正夫「名護さん、大丈夫ですか？」

翔平「えつ、知り合いなの！？」

正夫「ま、まあね」

翔平「そうなの。あつ、それとこれお借りしました。」
俺は名護さんにイクサベルトとイクサンックルを返した。

名護「き、み・・・う」

そう言って名護さんはさつきの不意打ちがきいたのか、気絶してしまった。

エリザベス「だ、大丈夫ですか！？」

正夫「大丈夫、気絶しているだけみたい」

翔平「まずどこかで休ませないとな・・一番近いのは・・・」

で鳴海探偵事務所に来た。

翔太郎「どうして内に来るかな?」

翔平「いいじゃないですか、人が困つてるときはお互い様じゃないですか?あつ、そういうえば今何時ですか?」

亞樹子「5時ちょっと前よ」

それをきいて俺とフィリップが反応した。

翔平「ちょっとラジオ借りますね、」

フィリップ「いやダメだ」

翔平「いいじゃん、ラジオ聞いたって」

フィリップ「ダメだ僕も聞きたいものがある」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

これって無限ループする?...」(1)辺で断ち切らないと...」

翔平「俺は

フィリップ「僕は

翔平・フィリップ「園咲若菜のヒーリングプリンセスが聞きたいんだ！」

「…え？」

第4楽章・Withフレンズ・2人のライダー（後書き）

園咲若菜のヒーリングプリンセスでまさかのかぶり。 いつたいどうなる…？ そして名護さんの行方は…？

第5話 - Aとの接觸／イクサV2爆現（前書き）

オリジナルライダー、始めました（冷やし中華、始めました風に）

第5話 - Aとの接触／イクサV2爆現

前回のあらすじ：

NEWキバ「さてキバちゃん、 そろそろ決めるよー!」

キバットエバ世「オーケー正夫、 そろそろ祭りの終わりだ!」

キバットエバ世「ウエイクアップ!」

イクサS・M「へえ、 すげえな・・・俺もやってみるか

イクサベルト「イ・ク・サ・ナ・ツ・ク・ル・ラ・イ・ズ・ア・ツ・
プ」

翔平「ちょっとラジオ借りますね、」

フィリップ「いいやダメだ」

翔平「いいじゃん、ラジオ聞いたって

フィリップ「ダメだ僕も聞きたいものがある」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

翔平「お願い」

フィリップ「ダメだ」

翔平「俺は

フィリップ「僕は

翔平・フィリップ「園崎のヒーリングプリンセスが聞きたいんだ！」

・・えつ

そして

ラジオ「さあ、始まりました、園咲若菜の・・ヒーリングプリンセス！今日も元気120%でお送りします！」

翔平「待つてました！」

ラジオ「ではまずは、風都ミステリーツアー！今日もたくさんのがきが届いてます！」

フィリップ「今日はいったいどんな謎が！？」

ラジオ「まず1つ目は、・・・なんと、風都を救う謎のヒーロー、仮面ライダーです！」

フィリップ「仮面ライダー？」

翔平「やつた―――読まれた―――！」

フィリップ「君がだしたのかい？」

翔平「まあ、聞いてなつて！」

ラジオ「なんでも都市伝説の仮面ライダーが存在していたらしいです！町の危機をさつそうと現れて悪をたおすヒーローですか・・・若菜も会つてみたいな」

フィリップ「仮面ライダー・・・」

翔太郎「仮面ライダー・・・」

正夫「仮面・・・ライダー・・・」

名護「うつ・・・う」

翔太郎「2人で1人の・・・」

フィリップ「仮面ライダー・・・」

翔太郎「フィリップ」「W!..」

正夫「町を救う仮面ライダー NEWキバ・・・か」

名護「くつ、う・・・こは」

正夫「あつ、名護さん大丈夫ですか！？」

名護「ま、正夫くん」

翔平「あの一大丈夫ですか？」

名護「き、きみは！」

翔平「あつ、すいません、勝手にあのベルト借りて、何かまづかつたですか？」

名護「いつ、いやそのことはいいんだ。ただ、」

翔平「ただ？」

名護「君に素晴らしい青空の会に入つて欲しいんだ！」

翔平「はつ、はい！？」

名護「君はイクサに変身し、性能を十分に使いこなした！君にならこの、イクサ∨2を使いこなせるはずだ！」

名護はそういうとイクサベルトとイクサンツクルにそつくりなイクサベルト∨2とイクサンツクル∨2を取り出した。

正夫「名護さん！イクサ∨2は完成していたんですか！」

名護「あつああ、というわけでこれを君に託す！答えは明日カフェ・マル・ダムールでいく！」

そう言って名護は去つていった。

翌日、カフェ・マル・ダムール

翔平「へえ……」こがカフェ・マル・ダムールか

名護「きみ、こいだ。」

翔平「あつ、どうも」

名護「まやは自ら紹介をしよう、俺は名護^{なご}紹介だ。そしてこちらが^{いすけ}」

嶋「嶋護だ。」

翔平「あつ、松風翔平です。」

嶋「名護くんから君の事は聞いている。どたんばでの変身でありながら複数のファンガイアをたおしたと。」

翔平「はあ・・・

嶋「君に素晴らしい青空の会に入会してもらいたいんだ。」

翔平「あの、素晴らしい青空の会ってなんですか？」

嶋「素晴らしい青空の会というのは私が会長を務めるファンガイアを殲滅するために結成された組織だ。警察や各企業に太いパイプラインを持ち、会員が犯罪を犯した際でも揉み消し得る権力を有している。」

翔平「マジですか！？」

嶋「名護くんのよつなファンガイアとの直接的な戦闘を行なう「戦士」の他、戦士の武器や兵器の開発、諜報やファンガイアの研究なども行なつてゐる。そして我々は君に青空のかいの戦士になつてほしいんだ」

翔平「そういわれても・・・」

渡「僕達からもお願いするよ」

翔平「渡さんに正夫！」

渡さんと正夫が店内に入つてきた。

正夫「お願いだよ翔平、翔平の力が必要なんだ。」

名護「お願いだ」

翔平「・・・分かりました。青空の会に入ります。」

嶋「本当かい！？助かるよ、君のよつな人材とはなかなか出合えないからね。」

名護「ではよろしく」

翔平「よろしくお願いし

ドカアアアン！――！

外で爆発が起つた。

翔平「なんだ！」

嶋「早速お仕事のようだな」

名護「行くぞ渡くん、正夫くん、翔平くん！」

渡・正夫・翔平「「「「はい！」」」

外には昨日戦つたファンガイアたちよりもさらにステンドガラス状のキツツキ風のファンガイアがいた。

名護「翔平くん、油断するな。ヤツは普通のファンガイアではない。従来のファンガイアを大きく上回る力を持つたネオファンガイアだ！」

翔平「なるほど、まあ戦うことには変わりはないか！」
俺はV2イクサベルトとV2イクサンナックルをだした。

渡「いくよ、キバット！タツロット！」

正夫「こい、キバちゃん！」

キバットバットエエエ世「キバッて、行くぜ！」

タツロット「ドラマチックにいきますよ！」

キバットバットエエ世「わーい、祭りだ、祭りだ！」

V2イクサンナックル・イクサンナックル「「レ・デ・イ」」

キバットエエ世・キバットエエ世「「ガブツ！」」

翔平・正夫・名護・渡「「「「変身!」」」

▽2イクサベルト（▽2イクサンナックル）・イクサベルト（イクサンナックル）「「「「「「「「

キイーン・ヒューン・・・・ピロロ・・・・キュイッピルルッジャキイーン!」

俺はイクサ▽2・バーストモードに、正夫はNEWキバ・キバフォームに、名護さんはイクサ・ライジングフォームに、そして渡さんはキバ・エンペラーフォームになった。

キツツキネオファンガイア「貴様たちにこの俺がたおせるとでも?」

NEWキバ「たおせるね」

キバ・エンペラーフォーム「ちつあやまちを犯さないためにも!」

ライジングイクサ「ネオファンガイア、その命、神に返しなさい!」

イクサ▽2B・M「たおすぞ、それが俺の運命なら!」

第6話・Aとの接触／ライダーの名乗り

前回のあらすじ：

ラジオ「さあ、始まりました、園咲若菜の・・ヒーリングプリンセス！今日も元気120%でお送りします！ではまずは、風都ミステリーツアー！今日もたくさんのハガキが届いてます！まず1つ目は、・・・なんと、風都を救う謎のヒーロー、仮面ライダーです！なんでも都市伝説の仮面ライダーが存在していたらしいです！町の危機をさつそうと現れて悪をたおすヒーローですか・・・若菜も会つてみたいな」

翔太郎「2人で1人の・・・」

フィリップ「仮面ライダー・・・」

翔太郎・フィリップ「W！・！」

名護「君に素晴らしい青空の会に入つて欲しいんだ！」

翔平「はつ、はい！？」

名護「君はイクサに変身し、性能を十分に使いこなした！君にならこの、イクサV2を使いこなせるはずだ！」

嶋「素晴らしい青空の会というのは私が会長を務めるファンガイアを殲滅するために結成された組織だ。警察や各企業に太いパイプラインを持ち、会員が犯罪を犯した際でも揉み消し得る権力を有している。名護くんのようなファンガイアとの直接的な戦闘を行なう「戦士」の他、戦士の武器や兵器の開発、諜報やファンガイアの研究なども行なっている。そして我々は君に青空のかいの戦士になつてほしいんだ」

渡「いくよ、キバット・タツロット！」

正夫「こい、キバちゃん！」

キバットバットヒーロー！「キバつて、行くぜ！」

タツロット「ドリマチックにいきますよー！」

キバットバットヒーロー！「わーい、祭りだ、祭りだ！」

バーチカル・イクサナックル「レ・デ・イー！」

キバットヒーロー！「ガブツー！」

翔平・正夫・名護・渡「「「「変身ー！」」」

バーチカル・イクサベルト（バーチカル・イクサナックル）・イクサベルト（イクサンナックル）「「「「フィ・ス・ト・オ・ン」」」

キツツキネオファンガイア「貴様たちにこの俺がたおせるとでも?」

NEWキバ「たおせるね」

キバ・エンペラーフォーム「もつあやまちを犯さないためにも!」

ライジングイクサ「ネオファンガイア、その命、神に返しなさい!」

イクサV2B・M「たおすぞ、それが俺の運命ならば!」

キバ・エンペラー「はつ!」

NEWキバ「やつ!」

キツツキネオファンガイア「きかない!」

NEWキバ「くつ、きかない、やつぱり3人呼んでドガバキに・・・」

「

キバットエヴ世「ダメだ正夫! そいつは危険すぎるー下手したら・・・」

イクサV2B・M「よつと」

俺はイクサカリバー・ガンモード乱射した。しかし効くはずもなく、キツツキネオファンガイアが突進してきた。

イクサV2B・M「そういう時はこいつだな!」

俺はすばやくイクサカリバー・ガンモードをカリバーモードに変形させて、キツツキネオファンガイアをついた。

キツツキネオファンガイア「くつ、人間」ときが――――！」
キツツキネオファンガイアの体からステンドグラス状の針ができ、
俺、ライジングイクサ、NEWキバ、キバ・エンペラーフォームに
命中した。

イクサV2「痛、やつてくれるな」

ライジングイクサ「だがこの状況では我々の勝ちも同然だ」

キツツキネオファンガイア「おつと、これを見てもそういうかな？」

キツツキネオファンガイアの背後に無数のサバトが現れ、それがひとつに合わさり、無数のサバトがライオンファンガイア（ルーク）になった。

キバ・エンペラー「アイツは、ルーク！」

NEWキバ「けどこつちは4人、大丈夫だ！」

キツツキネオファンガイア「そういうと思ったぜ。お前達、出できな」

キツツキネオファンガイアの言葉で3体のハゲタ力を思わせるファンガイアが現れた。

名護「ネオファンガイアに元・チェックメイトフォーのルーク、そして普通のファンガイアが三体か。」

この状況、一体でも強いネオファンガイアと、みんながおびえるライオンのファンガイア、そしてザコ3体か。そこはどうにかなつても、後の二体がダメかもな。

そんな絶体絶命な状況の中、俺が最初に見た仮面ライダーが現れた。

「フィリップ」「翔太郎、ヤツはドーパントとは違うみたいだ、」

翔太郎「だが敵であるには変わりはねえだろ。」

サイクロンメモリ（緑）「Cyclone！」

ジョーカーメモリ（黒）「Joker！」

翔太郎・フィリップ「「変身！」」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker！」

「ジャジャーンジャジャーンチャララランー（ピロリロピロリロ…）」（サイクロン変身音&発光）

「（ジャギーン）バンバンバン…！」（ジョーカー変身音&発光）

キツツキネオファンガイア「なんだお前は？」

W-C」「「仮面ライダー…仮面ライダーW…！」」

キツツキネオファンガイア「ほつ…・・・」

ライオンファンガイア「ゲームの始まりだ…・・・」

ハゲタカファンガイア×3　　ひゃーはつはつはつはつはつ！！

！

第7楽章・序章・仮面ライダー

前回のあらすじ：

NEWキバ「くつ、きかない、やつぱり3人呼んでドガバキに・・・」

「

キバットエバ世「ダメだ正夫！そいつは危険すぎる！下手したら・・・」

・

イクサバ2「痛、やつてくれるな」

ライジングイクサ「だがこの状況では我々の勝ちも同然だ」

キツツキネオファンガイア「おつと、これを見てもそういうかな?
？」

キツツキネオファンガイアの背後に無数のサバトが現れ、それがひとつに合わさり、無数のサバトがライオンファンガイア（ルーク）になった。

キバ・エンペラー「アイツは、ルーク！」

名護「ネオファンガイアに元・チェックメイトフォーのルーク、そして普通のファンガイアが三体か。」

W - C 」「翔太郎、ヤツはドーパントとは違うみたいだ、」「だが敵である」には変わりはねえだろ。」

キツツキネオファンガイア「なんだお前は？」

W - C 」「「仮面ライダー・・・仮面ライダーW!-!-」

キツツキネオファンガイア「ほつ・・・」

ライオンファンガイア「ゲームの始まりだ・・・」

ハゲタカファンガイア×3「「「ひやーはつはつはつはつはつ!-!-」

ハゲタカファンガイア「おらよ!」

W - C 」「接近戦か、それならこれだね」

メタルメモリ「Metal!-!-」

ダブルドライバー「Cyclone - Metal!-!-」

「ジャジャーンジャージーンチャラララン!-（ピロコロコロコロコロ...）」（サイクロン変身音＆発光）

「ジャジャジャン!-（カーン!-）ジャジャジャジャン!-!-」（メタル変身音＆発光）

ハゲタカファンガイア「なんだこいつ一色が変わった！」

W-CM「こいつで決めるぜ」

メタルシャフト「Metal!-マキシマムドライブ！」

W-CM「メタルツイスター！」

ハゲタカファンガイアはドーバントではないため、粉々に砕けた。

イクサV2「やつてるね」

W-CMがハゲタカファンガイアを倒しているのを見届けていた中、俺はなぜかルークことライオンファンガイアと戦っていた。名護さんは俺に、「君がチェックメイトフォーのルーク相手にどこまでできるか見たい」とつていつて俺を戦わせている。

ライオンファンガイア「おらあ！」

ヤツの攻撃力は他のファンガイアとは次元が違う。まともに受けたいたら間違いなくやられる。弱点はないのか…？

イクサV2「くそ！」

ライオンファンガイア「ぐわあああ！」

俺はイクサカリバー・カリバーモードでルークの右肩を攻撃した。思いのほか効いたらしく、地面に倒れてはいつくばっている。

イクサV2「弱点はそこか！」

一方、NEWキバは

キバットエバ世「ドッガハンマー！」

キバットエバ世はドッガハンマーを呼び寄せ、NEWキバはそれを両手で見事にキャッチ、NEWキバ・ドッガフォームになった。

NEWキバ「そりゃ！」

ハゲタカファンガイア「うわっ！」

ドッガハンマーの攻撃力が高いのかハゲタカファンガイアは吹き飛ばされた。

イクサバ「アア、あれ使えそうだな」

ルークの弱点の右肩を攻撃するのにあのハンマーは最適だ。そうだ、昨日の剣みたいに雅の持っていたのと形の似たやつがあるはずだ・・・あつた！！

イクサバ「正夫、それ借りるぞ！」

NEWキバ「えつ？」

イクサベルトバ「ド・ッ・ガ・フ・エ・イ・ク

グオオン・・・グオオン・・・グオオン！

イクサバ「よしつ！そりゃ！」

ライオンファンガイア「ぐああ！」

イクサ▽2 「痛恨の一撃だな、もうこいつちよー！」

ライオンファンガイア 「ぐわつ！」

イクサ▽2 「どどめはこいつだ！」

イクサベルト▽2 「イ・ク・サ・カ・リ・バ・ー・ラ・イ・ズ・ア・ツ・ブ」

ピロコロロロリッピロコロロコッ

イクサ▽2 「そりや！」

ライオンファンガイア 「うわああああああああ！」

ライオンファンガイア（ルーク）は全身がステンドガラス状になり、粉々になった。

ライジングイクサ 「上出来だ、正夫君、こつちも決めるぞ！」

NEWキバ 「はい！」

ライジングイクサはライザーフェッスルを、NEWキバはウェイクアップフェッスルを取り出した。

イクサベルト 「ピロリロピロリッ」

キバットエ▽世 「ウェイクアップ！」

ライジングイクサはハゲタカファンガイアは銃弾を打ち込んだ。しかし力が強かつたのか反動で吹き飛ばされた。そしてそのままその

反動をいかしてどび蹴りを、NEWキバは新・ダークネスマーンブレイクを放つた。

ハゲタカファンガイア×2「ぐわああ！」

ハゲタカファンガイア2体もまた全身がステンドガラス状になり、粉々になった。

イクサV2「残るはあの鳥ヤローか、」

一方キバエンペラーフォームとキツツキネオファンガイアは・・・

タツロット「ウェイクアップ・フィーバー！」

キバ・エンペラーフォームはエンペラーフォームブレイクを放った。キツツキネオファンガイアは普通のファンガイア以上に粉々になった。

ライジングイクサ「やつたな、渡くん！」

そしてみんな変身を解除した。

名護「君達はいったい何者だ？」

翔太郎「あ、俺たちはただの私立探偵だ」

フィリップ「・・・仮面ライダーだけどね」

名護「まあそれより翔平くん。君はすでに立派な戦士だ。これから分からぬことならなんでも教える。」

渡「改めてようしぐね、翔平くん。」

正夫「よろしく、翔平！」

翔平「ナニヤアホー。」

第8話・田覚ぬし魂（前書き）

アギト編です

第8話・田覚めし魂

前回のあらすじ：

W・C・J 「接近戦か、それならこれだね」

メタルメモリ 「Metal!」

ダブルドライバー 「Cyclone - Metal!」

メタルシャフト 「Metal! - Max Shimada - Metal!」

W・C・M 「メタルツイスター!」

キバットエバ世「ドッガハンマー!」

イクサバ2 「アア、あれ使えそうだな、正夫、それ借りるぞー。」

NEWキバ 「えつ?」

イクサベルトバ2 「ド・ツ・ガ・フ・ヒ・イ・ク」

グオオン・・・グオオン・・・グオン!」

イクサ▽2「よしつ！そりゃ！」

ライオンファンガイア「ぐああ！」

イクサ▽2「痛恨の一撃だな、もう一いつよー！」

ライオンファンガイア「ぐわつ！」

イクサ▽2「どどめはこいつだ！」

イクサベルト▽2「イ・ク・サ・カ・リ・バ・ー・ラ・イ・ズ・ア・ツ・ブ」

ライジングイクサ「上出来だ、正夫君、こっちも決めるぞー！」

NEWキバ「はい！」

イクサベルト「ピロリロピロリッ」

キバットエ▽2「ウエイクアップ！」

タツロット「ウエイクアップ・ファイーバー！」

名護「君達はいつたい何者だ？」

翔太郎「あ、俺たちはただの私立探偵だ」

フィリップ「・・・仮面ライダーだけどね」

名護「まあそれより翔平くん。君はすでに立派な戦士だ。これから分からぬことならなんでも教える。」

渡「改めてようじくね、翔平くん。」

正夫「ようじく、翔平!」

翔平「こちゅうじくよろじく!」

翔平「ああ、腹減った、なんかうまいもの食いたいな、」

時刻8時

腹の減った俺は自分の鼻を頼りにおいしそうな食べ物の売っている店を探した。

翔平「!-!-この匂い!」

。俺は足を止めた。店の名前は『Restaurant AGITO』

カラソカラソ

翔一「いらっしゃいませー。」かの席をどつぞー。」

翔平「どうも

俺はメニューを見た。・・・翔一スペシャル?なんだそりや、たのんでみるか。

翔平—すいません、この翔一スペシャルをひとつ、

翔
一
一
かじ」批ひ批した。

そして、料理がキタ。今までに見たことのない料理。よく言えば創作料理、悪く言えば軽いゲテモノ料理だ。

翔平 い、 いただきます」

俺は一口その食べ物を口の申込運んだ。

翔平ー・・・！」「めええー！

すいた時には皿から食べ物がなくなっていた。

翔平・いたるもあてした

時刻 9 時

目の前にナメクジのような怪人が現れた。

翔平「お仕事の時間が、行くぜ！」

イクサンツクル▽2「レ・デ・イ」

翔平「変、身！」

イクサンツクル▽2（イクサベルト▽2）「ファ・ス・ト・オ・ン」
キーン！ヒューン・・・ピロロ・・・キュイッピルルッジャキイ
ーン！！

イクサン▽2 S・M「さて行きますか！」

俺はセーブモードからバーストモードに変わった。

イクサン▽2 B・M「そりや！」

俺はイクサカリバー・カリバー・モードで怪人を切った。

怪人「ぐわあ！お前、アギトじゃない。でもお前アギトの力を！」

イクサン▽2「あん、アギト？」

そして『Restaur

ant AGITO』では

翔一「来た！」

翔一は何かを感じ取ったのか、店を飛び出し、愛車のホンダ▽TR
1000F・FIRESTORMに乗つて店を後にした。

そしてイクサン▽2と怪人

は

イクサバ2「何だこいつ？ドーパントでもファンガイアでもネオファンガイアでもないつぽい！？」

謎の怪人「アギト・・・抹殺・・・」
謎の怪人は左手で右手の甲を“闇の力”の文字の形に辿るという、殺しのサインを切つた。そして怪人の天使の輪のような円盤状の発光体が頭上に出現して、そこから槍のようなものが出ってきた。

謎の怪人「フン！」

怪人は槍をベルトになげてきた。その生でベルトは壊れ、変身が解除された。

翔平「ぐわっ！やべえ、嶋さんや名護さんになんて言おう、」
怪人は俺に槍を投げてきた。しかしそのとき俺の前『AGI-T』の店員さんが乗つたホンダVTR1000F・FIRESTORMが槍をはじいた。

翔一「大丈夫ですか！」

翔平「あなたは！」

翔一「あいつらは！俺と湯川さんと葦原さんで全員倒したはずなのに！」

怪人「アギト・・・抹殺！」

そういうと怪人は翔一さんにも槍を投げた。

翔平「危ない！」

今度は俺が翔一さんを助けた。

翔一 「ありがとう、それより……」

といふ趣と共にベルト・オルタリングが現れた。

溜めていそうな音

翔——「变身！」

ビューニーン！ フォーン！
変身音

翔一さんの姿はたちまち仮面ライダー・アギト・グランジフォームに変わった。

アギト・G-F「ファン!」

謎の怪人「ア・・・・ギ・・・・ト・・・・滅殺！」

謎の怪人は左手で右手の甲を“闇の力”の文字の形に巡るという、殺しのサインを切つた。そして怪人の天使の輪のような円盤状の発光体が頭上に出現して、そこから槍が出てきた。

アギト・G・F「！」

アギトはベルトの左についてるスイッチのようなものを押してベルトから長槍・ストームハルバードが出てきた。それと反応したのか、胸の部分と左腕が青色に変わり、アギトはグランドフォームからストームフォームに変わった。

アギト・S-F「ハツ！」

怪人「うつ！」

アギト・S・F「そろそろいくぞ、」

アギト・ストームフォームはハルバードスピンドを発動し、怪人にぶつけた。

怪人「ぐわああ！」

怪人はアギト・ストームフォームの技を受けて爆死した。爆死する直前に武器を出すとき同様天使の輪のような円盤状の発光体が頭上に出現した。

翔一「ふう・・・」

翔一さんはアギトへの変身を解除した。

翔平「ほえー・・・（新たなる仮面ライダー・・・、ね）」

あつ、そういうばいくさ／＼どうしようかな／＼、壊しちゃったよ。あれメンテするのにどれだけ時間かかるんだろうな、

第9話・シュラウドの森・ペガサスの記憶（前書き）

新オリジナルライダー登場

第9話・シユラウドの森・ペガサスの記憶

前回のあらすじ：

翔平「ああ、腹減った、なんかつまいもの食いたいな、……この匂い！」

店名『Restaurant AGITO』。

カラソカラソ

翔一「いらっしゃいませー！」机の席をビューベー！」

翔平「ビューモー！」

翔平「すいません。この翔一スペシャルをひとつ、」

翔一「はい、かしこまりました。」

翔平「お仕事の時間か、行くぜ」

イクサンナックル▽2「レ・デ・イー

翔平「変、身！」

イクサンナックル▽2（イクサベルト▽2）「ワイ・ス・ト・オ・ン」

キイーンー・ヒューン・・・ペロロ・・・キュイッピルルッジャキイ

ー
ン！
！

イクサ V2 S - M - さー て 行きま すか !

俺はセーフモードからハイストップに変わった

イケサバ2 B-M-そりや！」

怪人ーぐわあ！お前アギトじゃない！でもお前アギトの力を！」

イクサバ2 - あん、アギト?」

謎の怪人「アギト」・・・抹殺・・・

殺しのサインを切つた。そして怪人の天使の輪のような円盤状の発光体が頭上に出現して、そこから槍のようなものが出てきた。

謎の怪人「フン！」

怪人は槍をベルトになげてきた。その生でベルトは壊れ、変身が解除了された。

翔平「ぐわっ…やべえ、嶋さんやお譲りなんと言おひ、」

キイイイイイイイイイ
ン一

ヴオオオオン..... ヴオオオオン..... ヴオオオオン.....
力を

溜めていきそうな音

翔一「変身ー！」

ビコーンーーンー・フォーンー・変身音

謎の怪人「ア・・・ギ・・・ト・・・・滅殺ー！」

アギト・S・F「ちるちるこぐわー！」

怪人「ぐわああー！」

翔一「ふう・・・」

翔平「ほえー・・・（新たなる仮面ライダー・・・、ね）」

あつ、そういういえばイクサ／＼どうじよつかなー、壊しちゃったよ。
あれメンテするのにどれだけ時間かかるんだろうな、

次の日、カフェ・マル・ダムール

翔平「すいません！」

俺は嶋さんにめいにぱい謝っていた。

翔平「せつかくいただいたイクサ∨2を壊してしまってすいません！」

嶋「いいよ、それより敵はファンガイアでもネオファンガイアでも、そしてガイアメモリで変身したドーパントでもなかつたそうだね。」

翔平「はい、敵はステンドガラス状ではありませんでしたし、爆発してガイアメモリが排出されたわけでもありません。」

嶋「それはアンノウンだ。」

翔平「アンノウン！？」

嶋「ああ、1ヶ月前に全て消滅したと思われていた怪人のことだ。君は超能力の存在を信じているかね？」

翔平「超能力・・・」

嶋「アンノウンたちはその超能力を持つ人間ばかりを襲っていたんだ。最近の調べでは超能力を持つ人間を襲っていた理由は、超能力者達ばかりを襲っていた理由はどうやら超能力者には人間の進化形態、アギトになる可能性があるかららしい。アンノウンが超能力者ばかり襲っていた理由は、アギトに滅ぼされるのを恐怖していたという学説がある。」

翔平「アギト・・・そういうえば俺を助けたやつをアギトって言つていましたし、俺の中にアギトの力があるって・・・でも俺は超能力持つていませんし・・・」

嶋「そうか、まあそのことはおいといて君にこれを預けとこう。俺はファンガイアハンターを手に入れた R P G 風に

嶋「イクサバ2が直るまでこれを使って戦つてくれ、」

そして俺はカフェ・マル・ダムールを後にした。

しかし、その直後・・・

モールファンガイア「グオオオオオオ！」

野生のモールファンガイアが現れた

翔平「くつ、ならこいつで！」

俺はファンガイアハンターを使って攻撃した。しかし、モールファンガイアは地中にもぐり、隠れてしまった。

翔平「あれっ？あいつどこにいる？？」

フィリップ「松風翔平」

翔平「フィリップに翔太郎さん？」

翔太郎「さつきの怪物どこ行つた？まあそれより行くぜフィリップ」

フィリップ「ああ翔太郎、」

サイクロンメモリ「Cyclone！」

ジョーカーメモリ「Joker！」

翔太郎・フィリップ「「変身！」」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker！」

「ジャジャーンジャジャーンチャララランー（ピロリロピロリロ…）」（サイクロン変身音＆発光）

「（ジャギーン）バンバンバン…！」（ジョーカー変身音＆発光）

W-CJ「さて、アイツはどこだ？」

Wがモールファンガイアを探し始めた。俺もファンガイアハンターを前方に向け、用意していた。

モールファンガイア「フン！」

W-CJ「うわあ！」

モールファンガイアが不規則に地中に出てくるせいでファンガイアハンターは使えず、Wも防戦一方。

翔平「うわっ！」

今度は俺に攻撃を仕掛けてきた・・・？ヤツは俺を地面の中に引きずり込んだ。そしてきずいたときにはモールファンガイアはいなくなっていて、俺は霧に包まれた森の中にいた。そこには顔に包帯を巻いた女が立っていた。

翔平「あなたは？」

シユラウド「私はシユラウド？」

翔平「シユラウド？」

シユラウド「あなたは松風翔平ね」

翔平「あっ、ああ」

シユラウド「あなたにこれを預ける」

目の前にはロストドライバーとペガサスのメモリが合つた。
俺はロストドライバーとペガサスメモリを手に取つた。

シユラウド「これを使って戦いなさい」

翔平「ちょっと、待つて！」

目が覚めた。夢・・・だったのか？

W-C」「うわあああ！」

Wがモールドーパントの地中からの攻撃に押されている。

翔平「ここままじゃ負ける・・・！」

俺は自分の手にロストドライバーとペガサスメモリがあることに気が付いた。

翔平「夢・・・じゃなかつた？・・・今はこれを使うしか
ないか！」

俺はロストドライバーをつけた。

W-C「あれば、ロストドライバー？なぜ君が！？」「あればお
やつさんが使つていたのと同じベルトー！」

ペガサスメモリ「Pegasus！」

翔平「変身！・・・えーとガイアメモリをこのドライバーに入れて・・・」

ロストドライバー「Pegasus!」

俺の姿はみるみる天馬を思わせる姿になつた。

ペガサス「仮面ライダー・・・ペガサス！」

モールファンガイア「それがどうした・・・よつ！..」

モールファンガイアが攻撃してきた。

ペガサス「よつ！」

モールファンガイア「なにつ！」

ペガサス「へえ、空飛べるんだ。そりやそうだよな、天馬だもん、」
モールファンガイアは再び地中にもぐつた。俺はペガサスマグナム（トリガーマグナムの白バージョン）を取り出した。

ズカンズカンズカン！

モールファンガイア「うわあ！」

ペガサス「あれつ、当たつたの！？」

W-C「よし、マキシマムドライブだ！」

ペガサス「ん？ああ」

ダブルドライバー「Joker! マキシマムドライブ!」「

ロストドライバー「Pegasus! マキシマムドライブ!」「

Wはジョーカー エクストリームの準備を、俺はペガサスマグナムから円錐状の白い光を放つてモールドーパントをポイントした（ デルタのルシファーズハンマーを想像してください）。

W-CJ「ジョーカー エクストリーム!」「

ペガサス「はあ……!」「

2人のライダーのマキシマムドライブをうけたモールファンガイアは全身がステンドガラス状になり、粉々になった。

第10話・Mに負けるな／天国のカジノ（前書き）

第10話・・・もつこじまで来たか

第10話・Mに負けるな／天国のカジノ

前回のあらすじ：

嶋「敵はファンガイアでもネオファンガイアでも、そしてガイアメモリで変身したドーパントでもなかつたそうだね。」

翔平「はい、敵はステンドガラス状ではありませんでしたし、爆発してガイアメモリが排出されたわけでもありません。」

嶋「それはアンノウンだ。」

翔平「アンノウン！？」

嶋「ああ、1ヶ月前に全て消滅したと思われていた怪人のことだ。君は超能力の存在を信じているかね？」

翔平「超能力・・・」

翔平「あれっ？あいつど！」って・・・

フィリップ「松風翔平」

翔平「フィリップに翔太郎さん？」

翔太郎「さつきの怪物どこ行つた？まあそれより行くぜフィリップ」

「フィリップ「ああ翔太郎、」

サイクロンメモリ「Cyclone!」

ジヨーカーメモリ「Joker!」

翔太郎・フィリップ「変身!」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker!」

「ジャジャーンジャジャーンチャラララン!」（ペロロロロロロロ...）

「（サイクロン変身音＆発光）

「（ジャギーン）バンバンバン!...」（ジヨーカー変身音＆発光）

翔平「あなたは?」

シユラウド「私はシユラウド!」

翔平「シユラウド?」

シユラウド「あなたは松風翔平ね」

翔平「あつ、ああ」

シユラウド「あなたにこれを預ける。これを使って戦いなさい」

翔平「変身！・・・えーとガイアメモリをこのドライバーに入れて・・・」

ロストドライバー「Pegasus!」

俺の姿はみるみる天馬を思わせる姿になつた。

ペガサス「仮面ライダー・・・ペガサス！」

ダブルドライバー「Joker!・マキシマムドライブ！」

ロストドライバー「Pegasus!・マキシマムドライブ！」

Wはジョーカー エクストリームの準備を、俺はペガサスマグナムから円錐状の白い光を放つてモールドーパントをポイントした（ デルタのルシファーズハンマーを想像してください）。

W・C・J「ジョーカー エクストリーム！」

ペガサス「はあ！-！」

2人のライダーのマキシマムドライブをうけたモールファンガイアは全身がステンドガラス状になり、粉々になつた。

2人のライダーのマキシマムドライブをうけたモールファンガイア

は全身がステンドガラス状になり、粉々になつた。俺とWは変身を解除した。

翔太郎「なあ、何でお前、ロストドライバーとガイアメモリを?」

フィリップ「誰からもらつたんだい?」

俺は答えようとした。しかし、自分がなぜドライバーとメモリを持つているのか思い出せない。

翔平「分からない、気絶して目が覚めたらいつの間にかあつたし」

翔太郎「そうか・・・」

現在

名護「イクササーイズ! 俺は正しい! ついてきなさい、迎撃開始!」

俺はなぜかイクササイズをしている。

名護「腕ふりなさい ふりなさい 早くしなさい 飛びなさい
腕ふりなさい ふりなさい 早くしなさい 飛びなさい
腕ふりなさい ふりなさい 早くしなさい 飛びなさい
腕ふりなさい ふりなさい 早くしなさい 飛びなさい!」

翔平「ふう、やつと終わつた!」

正夫「けつこう・・・ハーダだよな」

フィリップ「はあ・・・はあ・・・なぜ僕まで・・・」

翔平「えーと、そろそろラジオ始まるな
俺は持参してきたラジオを『園咲若菜のヒーリングプリンセス』の
やつてるにあわせた。

ラジオ「園咲若菜の、ヒーリングプリンセス・今日も元気120%
でお送りします!」

翔平「これだけが心の癒しだよ・・・」

ラジオ「最初のコーナーは・・・風都ミステリーツアー! 今回いた
だいたおはがきは・・・なんと、風都にある謎のカジノ、ミリオン
コロッセオです! 風都のどこかにある謎のカジノ、一体どこにある
んでしょうか!」

フィリップ「ミリオンコロッセオか・・・」

そして鳴海探偵事務所に向かつた

フィリップ「ただいま」

翔平「お邪魔しマース」

「何とかしてよ、翔ちゃん!」

フィリップ「どうしたんだい、翔太郎?」

翔太郎「ああ、実はかくかくしかじか」

「 フイリップ 「なるほど、ミリオンコロッセオに・・・」

鳴海探偵事務所に依頼が来た。どうやら自分の娘がミリオンコロッセオに行ってから性格ががらりと変わったらしい。娘を何とかしてくれつ、てことだな。」

翔太郎「ミリオンコロッセオね、まあまざその娘を尾行するか、」

翔太郎さんと亜樹子さんは出かけていった。

翔平「俺もなんかやるうかな、フイリップはなんかしねーの?」

「 フイリップ 「僕は知らせを元に検索するまでさ、」

翔平「ふーん、じゃ俺も捜査ですつかな、暇つぶしに」

「俺は学校に向かつた。何故かつて?仮面ライダーフォーゼでおなじみのJKにミリオンコロッセオのことについて聞くためさ!」

翔平「よージェイク」

「 ジェイク 「翔平センpai! どうしたんですか、こんなところに?」

翔平「情報が欲しいんだ、ミリオンコロッセオについて、」
「 そういうと俺は1000円札を出してジェイクに渡した。そしてジェイクはあたりをキョロキョロしてから行つた。」

「 ジェイク 「まず、ミリオンコロッセオについて説明しよう。ミリオンコロッセオって言うのは、風都にある大きなカジノのことだ。このカジノにいったものは性格が激変し、金に目がなくなってしまうんだ。」

翔平「それ以外には?」

ジェイク「そこまでは……ちょっと……なー」

俺はさらに1000円札を出してジェイクに渡した。そしてジェイクはまたあたりをキヨロキヨロしてから行つた。

ジェイク「ひゅー……いや、どーもそのカジノを開いている主催者とカジノの勝負をしたヤツは金を失つて、意識がなくなるらしくいんだよ、」

翔平「そこへの生き方は?」

ジェイク「色々あるが……一番有力なのはバスらしい。」

翔平「ふーんなるほどな、ありがとな」
そして俺は学校を後にした。

ジェイク「ちよつ、これだけ!? もつと聞いてよ! そして金を、く
れつ」

生徒「ジェイク!」

ジェイク「何だよ、同情するなら金をくれ!」

生徒「やるよ、それより保健室の先生の攻略法、教えて!」

ジェイク「まず、体調が悪いと保健室に迎え、それから……

場所は変わり風都バス前

翔平「ここかな? あつ、翔太郎さん」

俺は一人の女を尾行していた翔太郎さんと亜樹子さんを見た。

翔太郎（わつ、お前、しつ！）

亜樹子「アーッ！見失つた！」

翔平「ごめんなさい」

翔太郎「もういいよ、それより情報をつかんだって本当か？」

翔平「はい、ミリオンクロッセオはどうやら風都バスで行くらしい
いんです。翔太郎さんが追っていた人が消えた直後にバスが通つ
たのが見えたことを考へると、ほぼ100パーセントでしょう、俺
は明日、今日と同じ時間帯にここ来てみます」

そして次の日

翔平「ふーん、この時間帯かな」

そしてさらに人が来た。中に翔太郎さんが追っていた人もいた。

翔平「あつ、バスキタ。」

そしてバスが来た。

乗つたはいいけど、どこ行くんだ？

バスはトンネルで止まつた。そしてみんな降りた。　・・・降りた？
ここが、ミリオンクロッセオ！？

第10話・Mに負けるな／天国のカジノ（後書き）

今回のモトネタ・仮面ライダーW 9月20日放送 第3話

Mに手を出さな／天国への行き方

第11話・Mに負けるな／金の表裏

前回のあらすじ：

名護「イクササーイズ！俺は正しい！ついてきなさい、迎撃開始！腕ふりなさい　ふりなさい　早くしなさい　飛びなさい！」

ラジオ「園咲若菜の、ヒーリングプリンセス！今日も元気120%でお送りします！」

翔平「これだけが心の癒しだよ・・・」

ラジオ「最初のコーナーは・・・風都ミステリーツアー！今回いただいたおはがきは・・・なんと、風都にある謎のカジノ、ミリオンコロッセオです！風都のどこかにある謎のカジノ、一体どこにあるんでしょうか？」

翔平「情報が欲しいんだ、ミリオンコロッセオについて、」

ジェイク「まず、ミリオンコロッセオについて説明しよう。ミリオンコロッセオって言うのは、風都にある大きなカジノのことだ。このカジノにいったものは性格が激変し、金に目がくなってしまふんだ。」

翔平「ごめんなさい」

翔太郎「もういいよ、それより情報をつかんだって本当か？」

翔平「はい、ミリオンコロッセオはどうやら風都バスで行くらしい
いんです。翔太郎さんが追っていた人が消えた直後にバスが通つ
たのが見えたことを考へると、ほぼ100パーセントでしょう、俺
は明日、今日と同じ時間帯にここ来てみます」

翔平「ここが、ミリオンコロッセオ。俺も何かしようかな」

ジャララララララララララ

翔平「ルーレットか……」

賭け人A「黒の19！」

賭け人B「赤の12！」

翔平（いや・・・黒の19だな・・・）

玉は俺の予想通り、黒の19に入った。

賭け人B「くそー、もうあとがねえーー！」

翔平「それ、俺が引き受けつい？」

賭け人B「はあ？」

翔平「もしだめだつたら金返しますか・・・2倍で」

そういうと賭け人Bは席を譲つてくれた。

賭け人A「ガキが勝てるでモ?」

翔平「それよりさつさと始めよ!」

ルーレットは回り始めた。

翔平「・・・・・赤の24だ、赤の24に全額かけよ!」

賭け人A「フン、たいした自身だな・・・黒の21!」

ルーレットが止まる・・・玉が入ったのは・・・

赤の24

賭け人A「何!?」

翔平「やり!」

???「みなさんようこそ。夢のカジノ、ミコオンコロッセオへ、
私がオーナーの加賀泰造です。」

翔平「ふーん、アイツがオーナーか、」

加賀「私への挑戦権を獲得したものが、また、現れた。」

フィリップ「なるほど、彼がマネーのメモリを持つものか。」

翔平「フィリップ！いたの？つか、マネーのメモリってアイツもドーパント？」

フィリップ「ああ、昨日ヤツと出くわしてねWに変身して戦つたんだ。あつ、ちなみに翔太郎や亞樹ちゃんも来ているから。」

加賀「その勇氣あるチャレンジャーの名前は・・・和泉優子！」

和泉優子の挑戦が始まった。まあ、原作どおり和泉優子は負け、加賀はマネーメモリを使ってマネードーパントに変身したけど。

和泉優子「待つて、今度こそ私につきが来る！」

マネードーパント「負け犬のクズはみんなそういう、確か両親の店が破産寸前・・・だつたかな？」

こうして、和泉優子の意識はコイン中に、

マネードーパント「ふふふ・・・ふははははは・・・ぶほ！！」

亞樹子さんのスリッパが加賀に炸裂。

亞樹子「アンタ、人を何だと思っているのよー。」

以下省略

翔平「で、何で俺なのかな！？」

翔太郎「悪い、フィリップが動かなくて」

フィリップ「……家族……家族……家族……」

翔平「分かりました。まあ、とりあえず、黒の16あたりで、」

加賀「なら私は赤の23だ」

ルーレットは止まり、黒の16に玉は入った。

翔平「やり、後一回勝てばOKだな」

加賀「くつ、このままだと……！」

マネーメモリ「MONEY！」

翔平「うわっ、変身した」

翔太郎「フィリップ、行くぞ」

フィリップ「……」

翔平「家族の事か」

翔平「家族のこととは今考えるな・・・お前には翔太郎さんみたいな
ー、・・・仲間がいるだろ」

フイリップ「！」

翔平「まあいいさ、さて行きますか」

ペガサスメモリ「P e g a s u s！」

翔平「変・・・身！」

ロストドライバー「P e g a s u s！」

ペガサス「仮面ライダーペガサス、行くぜ！」

そして俺は逃げていったマネードーパントを飛んで追いかけた。

フイリップ「翔太郎・・・」

翔太郎「なんだ？」

フイリップ「いこう」

サイクロンメモリ「C y c l o n e！」

翔太郎「ああ」

ジヨーカーメモリ「Joker!」

フィリップ・翔太郎「変身!」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker!」

「ジャジャーンジャージーンチャラララン!」（ピロコロロロコロ...）

「（サイクロン変身音&発光）

「（ジャギーン）バンバンバン!...」（ジヨーカー変身音&発光）

一方マネードーパントは

マネードーパント「はあ・・・はあ・・・疲れた」

ペガサス「めーつけ」

マネードーパント「何! 飛ぶのなんかあるか!...」

ペガサス「アリアリ、マジアリ。」

マネードーパント「だが一人で私を倒せるかな」

ペガサス「大丈夫、ちゃんとお仲間いるから」

マネードーパント「何?」

ブロロロロロロロロロロ ハードボイルダー・スタートダッシュモードが走る音

W - C J 「がハーダボイルダー・スタートダッシュモードに乗つてやつてきた。

W - C J 「よう、マネーのおっさん」「またせたね

マネーデーパント「マネーのおっさん…？貴様、家族はどうした！」

W - C J 「家族…・大丈夫さ、僕には頼りないけど、…・家族みたいな人たちがいるから、」

ヒートメモリ「Heat！」

メタルメモリ「Metal！」

ダブルドライバー「Heat - Metal！」

ペガサス「よつし、そろそろ決めますか」

W - HM 「ん？ああ」

メタルシャフト「Metal - マキシマムドライブ！」

鉄棒か、俺にも似たような無いかな？あつ、剣あつた。おまけにメモリ入れるスペースもあつた。

ペガサスブレード「Pegasus - マキシマムドライブ！」

W - HM 「メタルブランディング！」

ペガサス「必殺技の名前・・・よしつー・ペガサス・スター・ダスト！」

マネードーパント「ぐわああああ！」

マネーメモリは壊れた。しかし、俺の攻撃はまだ終わっていないので、加賀に当たった。

加賀「ぐわああああーー！」

ペガサス「あつ・・・・・・・・」

W-HM^{ひでー}(ひどいね)

ペガサス「じやつ」

W-HM「おい！」「せめて悪びれたらどうだい！？」
俺はさつそうと飛んで帰った

次の日

キンコンカンコン

放送「来週、全学年共通でテストがあります、」

翔平「へえー」

正夫「なんだるつ」

放送「このテストは学力」とにクラスわけをするためのテストです。ちなみに風邪で休んだら、最下級のクラスになります。」

۱۱۱

翔平「はあ！？」

正夫「なぜに！」

続
<

第11話・Mに負けるな／金の表裏（後書き）

翔平「こおおりあ、作者ーなんのつもりだー。」

「…僕、設定では勉強できない設定でしょー…どうするんだよー

翔平 いや、それははじめに勉強しろよ。

奇跡的な人間（いや）実はさあ、この小説って仮面ライダーやざまざまなアニメが混合・融合した世界つて設定でしょ」

正夫一まあ、そうだね」

奇跡的な人間「でも今のところ、仮面ライダーが混浴した世界だから…」

翔平 - たから?」

奇跡的な人間「バカとテストと召喚獣」を混合・融合させるんだ！」

奇跡的な人間」と、言うわけで、次回第12話、ご期待ください！」

翔平「勝手に閉めるな――――――！」

第1-2話・バカと観察処分者とFクラス（前書き）

前回のあとがきの続き：

翔平「でつ、本当に『バカとテストと召喚獣について』が混ざつてくるとはな・・・」

奇跡的な人間「いやーにぎやかになるね！」

翔平「逆に怖ーよ！あそこいらへんのキャラ、毒物料理作るヤツもいれば、スタンガンで気絶させてグロイ映画見せさせるヤツいるし・・・」

奇跡的な人間「そうかな？」

翔平「お前はいいよな・・・ただ小説を考えて書くだけだから・・・どうせ、俺なんかは・・・半殺しに会うのが関ノ山さ・・・」

奇跡的な人間「ちょっと矢車さんモードオフにして・・・今回ライダー出てこないんだから（あらすじ以外）！それじゃあ、張り切つてスタート！」

翔平「・・・どうせ俺なんか」

第12話・バカと観察処分者とFクラス

前回のあらすじ：

賭け人A「黒の19！」

賭け人B「赤の12！」

賭け人A「ガキが勝てるとでも？」

翔平「それよりさつさと始めようぜ

翔平「……赤の24だ、赤の24に全額かけよう

賭け人A「フン、たいした自身だな……黒の21！」

翔平「家族のことは今考えるな……お前には翔太郎さんみたいな
I、・・・仲間がいるだろ」

フィリップ「！」

翔平「まあいいさ、さて行きますか

ペガサスメモリ「P e g a s u s！」

翔平「変・・・身！」

ロストドライバー「Pegasus!」

ペガサス「仮面ライダー、行くぜ！」

フィリップ「いじつ」

サイクロンメモリ「Cyclone!」

翔太郎「ああ」

ジョーカーメモリ「Joker!」

フィリップ・翔太郎「変身！」

ダブルドライバー「Cyclone-Joker!」

ヒートメモリ「Heat!」

メタルメモリ「Metal!」

ダブルドライバー「Heat-Metal!」

メタルシャフト「Metal!-マキシマムドライブ！」

ペガサスブレード「Pegasus-マイシマムドライブ！」

W - H M 「メタルブランド「DIEING！」」

ペガサス・必殺技の名前・・・よしつ！ペガサス・スター・ダスト！」

キンコンカンコン

放送一来週、全学年共通でテストがあります。

翔平
へえ

正夫「なんだろう」

放送「このテストは学力ごとにクラスわけをするためのテストです。ちなみに風邪で休んだら、最下級のクラスになります。」

川方
不動
行道

翔平「はあ！？」

正夫「なぜに！」

* * * * *

「 」「 」「 」「 」「 」

翔平「はあーー？」

正夫「なぜにーー？」

放送「実は先月、この学校に画期的なシステムを導入しました。その名も「試験召喚システム」。科学とオカルトと偶然によつて開発された、この試験召喚システムを試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に対応するため、本校ではいち早くこのシステムを導入しました。「試験召喚システム」とは試験の点数に応じた強さを持つ「召喚獣」を使用した戦争「試召戦争」でクラス全体で勝ち上がる、簡単に言うとゲームみたいな物です。」

翔平「へえー、おもしろそつ、」

そして1週間後

先生「では始めてください」
テストが始まった。

姫路「はあ・・・はあ・・・

?

姫路「はあ・・・はあ・・・、うう、うう・・・」

明久「姫路さん！」

翔平「あつ、」
隣の席の姫路 瑞希が倒れた。それをもう片方の隣の席の吉井 明久が助けた。顔が赤いな・・・熱だな。

翔平「先生、姫路さんが倒れたんですけど・・・」

先生「途中退席者は、得点を無とする。」

翔平「あなたは生徒が熱を出しているのにまつておくんですか！」

？

先生「それがルールだ、」

翔平「・・・先生、姫路さんを保健室へ連れて行くので、途中退席します。」

先生「松風・・・そうした場合、お前の得点も無得点になるがいいのか？」

翔平「・・・ええ、かまいませんよ、その前に・・・オラア！・・・

先生「ぐふつ！」

俺は先生に腹パンをお見舞いした。

翔平「でもあんたのその態度は気に入らなくてね。だからあなた生徒から評判悪いんですよ。・・・つっても、気絶している人間に何言つても意味ないか・・・」

明久「なあ、俺も手伝つよ！」

翔平「ん？いいのか、途中退席は無得点だぜ。」

明久「うつ、」

翔平「お前はここでテスト受けてな、後は俺何とかすっから」

さてと・・・姫路さん、保健室に連れて行くか。

場所は保健室

ガラガラガラ 鼓を開ける音

明久「あつ、まだ起きてない？」

翔平「あつ、テスト終わつたの、どうだつた？」

明久「ま、まあまあかな」

姫路「うつ、うつ」

明久「あつ、起きた？」

姫路「ここは・・・？」

翔平「保健室だよ、テストの最中に倒れちやつたから、」

ガラガラガラ 鼓を開ける音

明久「あつ、鉄人」

翔平「ミスター・ジャイアントロボさん、どうしたんですか」

西村「だれが鉄人だ、だれがジャイアントロボだ。俺には西村宗一という名前がある！」

翔平「まあまあ・・・それよりなんですか？」

西村「ん、テストの結果を私に来た。」

明久「えっ、ホントですか！？」

翔平「あつ、いいっす。多分俺、明久といつしょだと思うんで」

明久がもらった封筒の中に入っていた紙に書かれた文字は・・・

Fクラス

西村「ちなみに吉井、お前は欠席して無得点になつたやつ以外で、お前は最も点数が悪かつたので、お前にこの称号を与える。」

西野は明久にさらにもう一枚封筒を渡した。その封筒に入っていた紙に書いてあつた文字は

『観察処分者』

観察処分者・・・それは学生生活を嘗む上で問題のある生徒に課せられる処分。基本的には教師の雑用係でありバカの代名詞である。

西野「そうだ、松風、お前にこの称号を『える。」

俺も封筒を渡された。その中の紙に書いてあるのは観察処分者を越える称号・・・

『黒の完全処分者』

黒の完全処分者・・・面倒なので後ほど説明シマス。

明久「・・・。」

翔平「そう落ち込むなって。じゃあ姫路さん、早速俺たちその・・・2年F組に行つてくるわ。体調よくなつたら来てね。」

俺は最初に渡された封筒を破り、中身を確認しながらながら、2年F組のある旧校舎に向かった。

まあ、確認しなくても俺がFクラスあることに変わりは無いが。

第1-2話・バカと観察処分者とFクラス（後書き）

奇跡的な人間「というわけで、今回の話で初登場の、吉井明久くんと姫路瑞希ちゃんです！」

明久「どーも」

姫路「よろしくお願ひします」

翔平「まあ、仲間が増えたうれしいが、黒の完全処分者ってなんだ？」 前書きから復活した。

奇跡的な人間「まあ、今のところ、観察処分者より悲惨な称号で、そのおかげで召喚獣が物を触れられて、痛みが召喚者に帰つてくるほか、黒金の腕輪を持つているってことぐらいかな」

翔平「もうほんと確定じゃん！」

奇跡的な人間「と、言つわけで次回をお楽しみに！」

翔平「じゃ、じゃ～ね～！」

明久（僕達、この中でちやんとやつていただけるかな）

姫路（正直不安になつてきました・・・）

奇跡的な人間「うーん」

明久「どうしたの」

奇跡的な人間「いやー、仮面ライダーのほうでも〇〇〇を参戦させようと思うんだけど、そうするとタイトルがややこしくなるんだよねー。そしたら下手したらどっちか消さない取つて思うんだよね、」

翔平「ふーん、好きにしたら」 今世紀最大の棒読み

明久「お前はいいよー一応この小説の主人公だから消えなくてすんで！僕は・・・」

姫路「それに〇〇〇^{オース}いれるなら、『AtΩN／運命のガイアメモリ』の少し前ぐらいがいいと思います！」

奇跡的な人間「うーん・・・そうだね〇〇〇^{オース}だすのもう少し待つてみるよ」

翔平「ツーわけで、スタート！――」 ものすごい早口

奇跡的な人間「勝手にやらないでー！」

第13話・俺とバカ達と召喚戦争

前回のあらすじ：

放送「実は先月、この学校に画期的なシステムを導入しました。その名も「試験召喚システム」。科学とオカルトと偶然によつて開発された、この試験召喚システムを試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に対応するため、本校ではいち早くこのシステムを導入しました。「試験召喚システム」とは試験の点数に応じた強さを持つ「召喚獣」を使用した戦争「試験戦争」でクラス全体で勝ち上がる、簡単に言つとゲームみたいな物です。」

先生「では始めてください」

姫路「はあ・・・はあ・・・、うつ、うつ・・・」

明久「姫路さん！」

翔平「あつ、先生、姫路さんが倒れたんですけど・・・」

先生「途中退席者は、得点を無とする。」

翔平「・・・先生、姫路さんを保健室へ連れて行くので、途中退席します。」

先生「松風・・・そうした場合、お前の得点も無得点になるがいいのか？」

翔平「・・・ええ、かまいませんよ、その前に・・・オラア！・・・」

先生「ぐふつ！」

翔平「でもあんたのその態度は気に入らなくてね。だからあなた生徒から評判悪いんですよ。・・・つっても、気絶している人間に何言つても意味ないか・・・」

ガラガラガラ 鼓を開ける音

明久「あつ、鉄人」

翔平「ミスター・ジャイアントロボさん、どうしたんですか」

西村「だれが鉄人だ、だれがジャイアントロボだ。俺には西村宗^{にしむら そう}一^{いち}という名前がある！」

明久がもらつた封筒の中に入っていた紙に書かれた文字は・・・

西村「ちなみに吉井、お前は欠席して無得点になつたやつ以外で、お前は最も点数が悪かつたので、お前にこの称号を与える。」

西野は明久にさらにもつ一枚封筒を渡した。その封筒に入つていた紙に書いてあつた文字は

『観察処分者』

西野「そつだ、松風、お前にこの称号を与える。」

俺も封筒を渡された。その中の紙に書いてあるのは観察処分者を越える称号・・・

『黒の完全処分者』

黒の完全処分者・・・それは観察処分者を越える称号。『『黒の』』とは、完全処分者は、『『黒』』と『『白』』、両方存在し、黒の完全処分者は、観察処分者のように雑用をこなすため、召喚獣を特例として物に触れる事ができるが、召喚獣の受けた痛みや疲労は召喚者にファードバックされる。おまけに黒金の腕輪を使用する事が許された称号。

明久「・・・〇一二」

翔平「そう落ち込むなって。じゃあ姫路さん、早速俺たちその・・・2年F組に行つてくるわ。体調よくなつたら来てね。」

しばらく歩いていると、成績最上級のクラス、2年A組の教室が見えてきた。

翔平「ほえー・・・」

明久「スゲー・・・システムディスクにリクナイディングシート・・・！」

翔平「ノートパソコン支給に、・・・フリードリンクサーバーだ！」

明久「俺たちの教室もあんなのだつたらいいな・・・」

翔平「そうだな・・・あつ、霧島だ・・・あいつやつぱっこ（Aクラス）かー・・・」

俺は教室の中にいた霧島翔子を見た。

翔平「じゃつ、そんな俺たちの希望を胸に、Fクラスに行きますか！」

さうにBクラス、Cクラス、Dクラスが見えてきた。

翔平「なんか、どんどん設備が悪くなつているような・・・」

明久「きつ・・・、気のせいだよ・・・多分」

Aクラス、Bクラス、Cクラス、Dクラスがある新校舎を抜けると、どう見ても使えそうに無いおんぼろな旧校舎が見えてきた。

翔平・明久「…………」

翔平「Eクラスまでは……Eクラスまでは許せたよ……」

明久「さすがにこれはねえよ……」

俺たちのクラス、Fクラスは、どこもかしこも壊れていて、畳、机はちゃぶ台で代用、いすはぼろぼろの座布団で代用している。どこもかしこも壊れていて、女子なんてどこにもいない……。あつ、やつぱ一人……いや一人いた。

翔平「くそつ、これが各社社会つてヤツか……」

福原「二人とも、席についてください」

明久「はーい……」

翔平「ふあーい！席はどこですか、」

福原「好きな席にどうぞ。」

明久「席も決まっていないの！」

にしてもこの教室Fクラスは学力最低ランクの女に飢えた野郎共のテリトリーみたいなものだからな……スッゲー気持ち悪くなってきた。

福原「どーも、私がこのクラスの担任の福原慎です。よろしく……
福原が言いかけていると、席が壊れた。

福原「工具箱を取つてきます。」

翔平「・・・あつ、俺のも壊れた。」

雄二「ボンドなら後ろにあるぞ」

翔平「あつ、ありがと・・・えつ、雄一もこのクラス!？」
坂本雄二「は」親切にボンドの場所を教えてくれた。

雄二「俺だけじゃないぜ」

美波「ハロハロ」

明久「島田さん! そつか、やつぱり島田さんは「クラスだよね!」

美波「怒」それってどういう意味! 内がバカだとでも言いたいの
「！」

翔平「まあまあ・・・関節技決めていると、いつまでたつても・・・
ていうか一生答えてくれないとと思うよ!」

明久「胸が無いからものす」く痛む・・・

ブチ マジ切れモードになつた音

ドカア! ! ! 明久が美波にぶん殴られる音

ゆらつ 美波のスカートが風に揺らいだ音

マッシニー「」

キラーン ムツツリー（土屋 つちや 康太）の眼が輝いた音

ムツツリー、「みつ、見えそうで、見え……」

秀吉「あいからわざにぎやかじやのい」
美波「ウチは帰国子女で日本語がうまく読めないのよ、」

明久「痛つつつつ・・・秀吉？」

秀吉「わしもヨクラスじや、よろしくのう」

がらがらがら ドアの扉が開いた音

正夫「はあ・・・はあ・・・遅れました！」

翔平「あつ正夫、どうしたんだ?」

正夫「いやちょっと、この校舎歩いていたら、いきなり穴あいて・・・抜けるのすごい体力使ったんだ・・・」

翔平「ふーん、そーつ ものすごい棒読み

正夫「なにつ、その反応！？」

翔平「あーっ、こやつお前もやつぱりエクラスマんだなって思つて」

正夫「それひどいよ！一応勉強したんだから！」

フィリップ「君達少し静かにしたまえ」

明久「あれっ、フィリップなんでFクラスなの！？」
明久はなぜ驚いているのかといつと、フィリップはテストではいつも100点を取っているからだ。・・・まあ、先生への態度はあれなので内申は最悪なのだが。

雄二「居眠りしていたからだろ、あいつ一番前の席で、明久は後ろだから分からないか。」

雄二の言葉で明久は、ああなるほど、といつたが実はフィリップはテストの時間中、Wに変身していたので、意識は翔太郎のところにいって、体は空になっていたからだ。

秀吉「Fクラスはこれで全員か？」

翔平「いやっ、あと一人来るはずだぜ。」

がらがらがら　ドアの扉が開いた音

姫路「遅れました！」

明久「姫路さん！もう体は大丈夫なの？」

姫路「はい、ご迷惑おかけしました。」

翔平（これで全員そろつたか・・・少し寝るか。）

姫路「あつ、あの、松風さんもありがとひびき・・・」

翔平「くかーー、」

姫路「あつ寝ていますか」

雄二「なあ、みんな聞いてくれー!」

俺はこのときまだ気付いていなかつた・・・下クラスが試験召喚戦争を他のクラスに仕掛けるということを・・・俺は気持ちよく寝ていた・・・

第14話・俺と召喚獣と黒い腕輪（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：紀元前202年に中国を統一したのは『漢』ですが、『漢』の前に中国を支配していたのは何ですか？

姫路瑞希の答え

秦

教師のコメント

正解です。特にありません。

吉井明久の答え

カタカナ

教師のコメント

それは漢字です。

松風翔平のコメント

三+人+ノ+木=秦

教師のコメント

バカでも理解できそうな答えですね。後で吉井君に教えてください。

松風翔平のコメント

明久、どんな答えだしたんですか？？

第14話・俺と召喚獣と黒い腕輪

前回のあらすじ：

明久「スゲー……システムディスクにリクナイティングシート……！」

翔平「ノートパソコン支給に……フリードリンクサーバーだ！」

明久「俺たちの教室もあんなのだつたらいいな……」

翔平「そうだな……あつ、霧島だ……あいつやつぱっこ（アクラス）か……」

翔平「くそつ、これが各社社会つてヤツか……」

福原「二人とも、席についてください」

明久「はーい……」

翔平「ふあーーー！ 席はどこですか、」

福原「好きな席にどうぞ。」

明久「席も決まっていないの！」

秀吉「Fクラスはこれで全員か?」

翔平「いやつ、あと一人来るはずだぜ。」

がらがらがら ドアの扉が開いた音

姫路「遅れました!」

明久「姫路さん!もう体は大丈夫なの?」

姫路「はい、」迷惑おかげしました。」

翔平（これで全員そろつたか・・・少し寝るか。）

姫路「あつ、あの、松風さんもありがとうござい・・・」

翔平「くかーー、」

姫路「あつ寝ていますか」

* * * * *

雄一「なあ、みんな聞いてくれ!」

俺はこのときまだ気付いていなかつた・・・Fクラスが試験召喚戦
争を他のクラスに仕掛けるということを・・・俺は気持ちよく寝て
いた・・・

數分後

明久「おきてつ、おきてつ！」

雄一「仕方ない・・・島田、起こしてやれ」

美波 はい・・・それっ！」

どかん！！！
俺が美波に悶絶技決められた童

翔平 - おじさん

姫一 まだ起きなしが……も、とせ……

翔平、ギブギブギブギブギブギブ！――！起きているから！

雄
一
起きたか・・・では明久、松風、前に出てくれ」

明久一才一ヶ一

翔平 まつ、待つて・・・体が痛んで動けないんでいすが・・・

明久一あII分かつた、つれてくよ」

翔平 あつ、待つてそこ特にいたま・・・痛つつつつつつつつつつ

11

明久「あつ、」めん「

雄二「みんな、聞いてくれー」の吉井明久は観察処分者の称号を持つ
ち、松風翔平はその上を行く、黒の完全処分者の称号を持つて
いる！まず、みんなにこの二つの照合について説明してやつてくれ。」

明久「えつ、じゃあ僕は観察処分者について説明します。観察処分
者って言うのは、学生生活を嘗む上で問題のある生徒に課せられる
処分のことで、召喚獣を物に触れることができる能力が付きます。

F組「おお～」

明久「ただその分、召喚獣の受けた痛みや疲労は召喚者に戻つてく
るから最悪らしいです。物体を触れる能力のせいで基本的には教師
の雑用係みたいなものです。」

秀吉「ついでに、つとバカの代名詞、じゃな、」

翔平「えーと、痛！・・・黒の完全処理者って言つのは・・・基本
的に観察処理者となんら変わらないんで前略。・・・ついでに黒金
の腕輪が使えるだけ、」

そう言つと、姫路さんがゆっくりと手を上げた。

姫路「あのー・・・」

翔平「ん？何？」

姫路「黒金の腕輪つてなんですか？」

翔平「えーと・・・みんな召喚獣を召喚するには先生の許可が必要って知っているよね・・・」「

明久「えつ、そうなの！？」

翔平「……………」
「うと先生の許可無く召喚獣を召喚することができる、スーパーアイ
テムなんです！」

「つを組」――「」

翔平「つーわけで早速使ってみたいと思いやす。えーと、科目は何がいい?」

ムツツリーー「・・・・保健体育で！」

翔平「分かつた保健体育な・・・ふうー・・・起動『アウェイクン』
！！！」

俺の左腕に装着してある黒金の腕輪からムツリーー指定の保健体育の召喚フィールドが作成された。

上組「𠵼𠵼𠵼」

翔平「じゃー続けて・・・サモン!」

俺は召喚獣を呼び出すキーワードをビームの鍵を使って変身する海賊戦隊の持つ『モイレーツ』からでる声のようになにか「良く叫んだが・・・

翔平（召喚獣）「<^>、<><>・・・」

俺の召喚獣は真っ白になりながら床に這い蹲つていた。今にも「燃え
た・・・燃え尽きたよ・・・真っ になつ つて言いそうだ。

姫路「どうしたんですか？」

翔平「あつ、俺途中退席したから得点無効になつていたんだつた。」
ははは・・・

雄一「まあ、それはおいといて・・・話を戻す、誰かEクラスに宣戦布告していくてくれ！」

秀吉「寝取つたからのう・・・・」

正夫「それとそ」・・・「得」とか「絵」とかじゃなくてふつうに
「え」だから

美波一 でも行くとしたら・・・

明久「何で僕なの！？」

姫路「あの、私が行きましょうか?」

翔平「それはダメ！何されるかわからんないよ！？」

姫路「そうですか・・・」

ぶほつ
ものすごい勢いで隙間風が入ってきた音

姫路 - きやう - 「」

姫路さんが席に着くうとすると、強い隙間風が姫路さんのスカートを動かした。それを見たムツツリーは・・・

ムツツリー——「くわッ! びくびくびくびく

翔平 - ムツツリー - !

翔平 ムツツリー！」「かりしる！」「かりするんだ！」

翔平 しゃべるんじゃない！今 今医者を呼ぶから……」「

秀吉 - 普通に保健室に行つた方が早いのではないか?」

ムツツコー——み^ト・・・み^ト・・・う・・・・・・・

翔平、もうたんだマッサニー！？誰がいる！？

ムツツリーニー
み・・・・・・・・
水色・・・・・・
「
(バタリ)

翔平「ムツツリ——————」

雄二「なあ松風、（宣戦布告）たのめるか？」

翔平「ああ・・・ムツツリーー、君の死は無駄にしない！行くぞ、明久！」

明久「えつ、ちょっと待つてなんで僕まで・・・たすけて・・・助けて――――！」

Fクラス一同「がんばれー」 みんな棒読み

そして結局

明久「思いつきり殴られたよつ！ねえ！」

秀吉「それよりわしは松風が無傷なのか気になる・・・」

翔平「まあいいじゃないの、」

明久「よくないよ！人を盾にしてー！」

翔平「Eクラスとの試験召喚戦争まで後2日、張り切つていー！」

Fクラス一同「おー！」

明久「無視しないでえーー！」

第1-5話・FとEと忍耐戦争（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：あなたはこの学校の試験召喚システムのことをどう思いますか。

姫路瑞希の答え

争いをするのは良くないと思います。

教師のコメント

姫路さんの言うようによくないかもしだれませんが、これも授業のいつかんです。それにこのシステムによって結束力が高まると思いますよ。

吉井明久の答え

雑用係 反対

教師のコメント

ならもうと勉強しましょ。

吉井明久のコメント

無理ッス

ムツツリーの答え

チャンスがあればパンチラを撮りたい・・・

教師のコメント

「メント」がいいです

紅正夫の答え

学費が安くなつて最高です！

教師の「メント」

このシステムによつて多くのスポンサーが付いて学費が安くなりましたが、あなたの喜ぶポイントはありますか！？

松風翔平の答え

趣味にしたいほど面白い

教師の「メント」
具体的にどうが？

松風翔平の答え

俺の分身である召喚獣が他の召喚獣を痛めつけるところがなんともいえない。本物やると色々メンダーだから。これ見てストレス解消。

教師の「メント」

あなたは鬼ですか

第15話・FとEと召喚戦争

前回のあらすじ：

雄二「みんな、聞いてくれ！」この吉井明久は観察処分者の称号を持ち、松風翔平はその上を行く、黒の完全処分者の称号を持っている！まず、みんなにこの二つの称号について説明してやつてくれ。」

明久「えっ、じゃあ僕は観察処分者について説明します。観察処分者って言つのは、学生生活を嘗む上で問題のある生徒に課せられる処分のことで、召喚獣を物に触れることができる能力が付きます。ただその分、召喚獣の受けた痛みや疲労は召喚者に戻つてくるから最悪らしいです。物体を触れる能力のせいで基本的には教師の雑用係みたいなものです。」

秀吉「ついでに、つとバカの代名詞、じゃな、」

翔平「えーと、痛！・・・黒の完全処理者って言つのは・・・基本的に観察処理者となんら変わらないんで前略。・・・ついでに黒金の腕輪が使えるだけ、」

姫路「黒金の腕輪ってなんですか？」

翔平「えーと・・・みんな召喚獣を召喚するには先生の許可が必要つて知つているよね・・・」

明久「えっ、そうなの！？」

翔平「……………」
「うなんだけど、この黒金の腕輪を使
うと先生の許可無く召喚獣を召喚することができる、スーパーアイ
テムなんです！」

ムツツコー！「へわー、」びへびへびへびへ

翔平「ムツツリーーー！ムツツリーーー！しつかりしろ！しつかりする

ムジシロー——「み・・・・・み・・・・・。」

翔平「しゃべるんじゃない！今、今医者を呼ぶから・・・。」

秀吉「普通に保健室に行つた方が早いのではないか?」

ムツツリニ一
みつ・・・みつ・・・う・・・・・・

翔平「どうしたんだマツコーーーー? 言つてみろーー?」

ムツツリーニ「み・・・・・水色・・・・。」
(バタリ)

翔平「ムツツリ——————」

誰か・・・誰か助けてください――――――――――――

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

side 翔平

翔平「ふあー、今何時だ？」

俺は時計を見た。まだ時間大丈夫だな。

翔平「いつてきまーす、つっても誰もいないか・・・」「

実を言うと俺は一人暮らしをしている。

バタン！ ドアを閉める音。

翔平「あっ、明久」

明久「あっ、翔平」

翔平「お前もこのアパートの住人なの？」

明久「お前もそうだったの！？」

翔平「なあ、俺の愛車に乗つていかないか？」

明久「愛車つて車！？」

翔平「ちげーバイクに決まっているだろ」「

俺たちは駐車場に向かつた。俺の愛車は・・・イクサリオンエイ。先日嶋さんにもらつた。

明久「お前、バイクの免許持つていたの？」

翔平「当たり前だ・・・ほら」

俺は財布から免許証をだして、明久に見せた。

翔平「なつ、・・・・これ、俺のスペアのヘルメット貸すから後ろ乗
れよ、」

明久「あつ、でも俺、やつぱいいや」

翔平「ふーん、そう・・・でも歩いていくと確実に遅刻だぜ。」

明久「えつ、時計見せて、」

翔平「ほう」

明久「・・・乗せていいでござー」

翔平「オーケイ、出発!」

んでもつて学校到着!

雄二「みんな、今日が試験召喚戦争当日だ、まず作戦を再確認する
つー!」

俺たちの作戦・・・それは数学の長谷川先生を拉致し、数学のフィ
ールドで戦う戦法。そしてみんなが戦っている間、振り分け試験で
途中退席した俺と姫路さんは回復試験を受け、途中参戦する寸法だ。

翔平「それじゃあ、みなの者、配置につけー!」

雄一「開戦だ！」

F組一同「オー！！」

翔平「じゃつ、姫路さん回復試験がんばりましょうー！」

姫路「はいっ！」

ついに開戦・・・配置を説明すると精銳が正夫、秀吉、美波、ムツツリーニ、守備、FFF団 団員、そして代表の雄一と最終防衛の観察処分者 明久。

s i d e 正夫

今回のフィールドは数学。島田さんは得意だつていうし、僕もそこそこ得意だ。まず、精銳が突破口を作つて相手の守備をたたかないと！

正夫「紅正夫、行きます！」

美波「島田美波、行きます！」

秀吉「木下秀吉、助太刀する！」

ムツツリーニ「土屋康太、同じく！」

美波「試験召喚獣・・・！」

正夫・美波・秀吉・ムツツリーニ「『サモン！』」「」

島田さんの召喚獣は軍服の格好に武器はサーベル。

秀吉のは服装は袴、武器に薙刀の姿の召喚獣。

ムツツリー＝召喚獣は忍者を模した姿で、小太刀＝刀流のスタイル。

そして僕の召喚獣は、大牙伯父さんの前のキング、つまり大牙伯父さんのお父さんが来ていた服に良く似ていて、武器はザンバットソードのザンバットバットなしバージョンと別世界のキバがファイナルフォームライドした姿のアローの2つだ。僕達の点数は島田さんが89点、ムツツリーが25点、秀吉が51点。そして僕は68点だ。

正夫「よーし！」

僕は軽く近くにいたEクラスの人の召喚獣を僕の召喚獣が攻撃した。しかし、相手も手ごわく、連携で反撃された。

正夫「ぐわっ！」

他のFクラスのみんなはムツツリー＝並かそれ以下の点数・・・どう考えても勝ち目は無い！

s i d e 翔平

外は騒がしい、もつと点数を稼がないと、しょっぱから負けるかもしれない・・・

教師「二人とも、テストを止めてください！」

翔平「ふう、終わった・・・」

俺がテストを終わらせたのはみんなが追い詰められた時。

教師「結果を発表します。姫路さん、412点……松風君5ひゃ・・・」

翔平「結果はいいです、それより早く参戦しないとやばいでしょう。」

外では

美波「このままじゃあ……負けちやう！」

翔平「みんな待たせたな……俺、参上！」

俺は皆さんご存知、仮面ライダー電王に出てくる赤色のイマジン、『モモタロス』の決め台詞と決めポーズをまねて（もつともあつたこともないし、知っているわけでもないため真似とは言え無いだろうが）、先陣を切った。

翔平「松風翔平……いけるぜ！みんな待たせたな！」

雄二「全くだ……今はお前が頼りだ！」

翔平「ああ分かつた……試験召喚獣サモン！」

俺の召喚獣は、改造学ラン（足元まで届き、内側に鳳凰の刺繡）と、武器は肩にかけた2本の日本刀、腰に下げてある2丁のハンドガン、背中に背負っているマシンガン。そして改造学ランの中に収納してあるスタンガンが二つある。

そして気になる得点は……

中林「数学……538点！？」

Eクラス代表の中林 なかばやし 宏美ひろみも驚いている。

翔平「まつ、これでも低いほうなんだけじね、他の教科も軽く500点以上はいくつてるし、大体はこの点数以上だぜ。」

中林「そつ、そんな……これは……学年主席並、……もしくはそれ以上！」

翔平「Eクラス大将（？）中林宏美の首……F組代表（自称）参謀、松風翔平、首とつたり～～～！」

『Eクラス 中林宏美 数学の点』

長谷川「試験召喚戦争……Fクラスの勝ちー！」

Fクラス一同「やつたー！」

しかし、勝利を喜んでいるのをよそに、俺はひとつないやな予感がした。

西村「戦死者は補習――――――！」

翔平「あつ、ジャイアントロボセンセだ」

西村「……お前も補習するか？」

翔平「いえ、遠慮しちゃます！」

なるほど、これがいやな予感か……戦死者のみんな、ファイトー

雄一「とにかくで、なんなくEクラスの設備ゲットだ！」

「Fクラス一同「イエーイ！」

明久「いやーすごーくつかれたねっ！」

秀吉「明久、おぬしは何もやつとらんだろ。」

こいつして俺たちの最初の試験召喚戦争は俺たちの勝利で終わった。

第16話・こと宣戦布告とアウェイクン（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：元は百姓の息子で、織田信長の家来になり、後に天下統一を成し遂げたのは誰でしょう。

姫路瑞希・木下秀吉の答え

豊臣秀吉

教師のコメント

正解です。木下さんは最近演劇のほうで豊臣秀吉をやっているので簡単でしたか。

島田美波の答え

豊臣秀吉

教師のコメント

確かに昔の人物は藤原道長のよつに苗字の跡に『の』を入れますが違います。とても惜しいです。

吉井明久・土屋康太の答え

木下秀吉

教師のコメント

確かに木下君は演劇で豊臣秀吉の役をしていますし、苗字も旧姓なので惜しいですが、違います。

松風翔平の答え

A サル

o r

B 猿面[冠者]

o r

C はげ鼠

の内どれ？

教師の口メンツ

どれも豊臣秀吉のあだ名ですが、ちゃんとお前で呼んであげましょ
う。

第16話・こと宣戦布告とアウェイクン

前回のあらすじ：

翔平「それじゃあ、みんなの者、配置につけー！」

雄二「開戦だ！」

正夫「紅正夫、行きます！」

美波「島田美波、行きます！」

秀吉「木下秀吉、助太刀する！」

ムツツリー二「土屋康太、同じく！」

美波「試験召喚獣・・・！」

正夫・美波・秀吉・ムツツリー二「・・・サモン！」

翔平「みんな待たせたな・・・俺、参上！」

松風翔平「・・・いけるぜ！みんな待たせたな！」

雄二「全くだ・・・今はお前が頼りだ！」

翔平「ああ分かつた・・・試験召喚獣サモン！」

中林「数学……538点！？」

翔平「まつ、これでも低いほうなんだけどね、他の教科も軽く500点以上はいつてるし、大体はこの点数以上だぜ。」

中林「そつ、そんな……これは……学年主席並、……もしくはそれ以上！」

翔平「Eクラス大将（？）中林宏美の首……F組代表（自称）参謀、松風翔平、首とつたり～～！！」

s i d e 翔平

Eクラスとの試験戦争は俺たちの勝ちで終わった。ちなみに俺は今どこにいるかといふと……

翔平「我等Fクラスは、Cクラスに宣戦布告するつー。」

……Cクラスで宣戦布告していく。

数分後、Fクラスにて

翔平「……ボ」られてきますた。」

秀吉「そのように見えぬのじゃがのう……」

明久「どじがボコられたんだよ！無傷じゃないか！」

翔平「俺は別に俺がボコられて来たとは言つてないぜ……俺の盾にしたやつがボコられたのぞー。」

正夫「それもヒドイー！」

雄二「まあ、ちゃんと宣戦布告してきたのか？」「…

翔平「もちッス！」

雄二「そうか……今回の試験戦争では、相手が教科を決めることになつてこる。」「…

ムツツリー「情報によると、このクラスのほとんどは現国が得意らしい。」「…

翔平「へえーよく知つているねつ、」「…

ムツツリー「…………女子のだけだナビ」「…

雄二「ならムツツリーの情報を信じて相手が現国教科を選択するとしてよう。そうすると現国が得意なヤツを主力にする必要がある！得意なヤツはいなか！」

姫路「私、少しなら……」「…

翔平「俺は……不得意の部類だけど他の奴等よつけマジだろつ」「…

雄二「そうか・・・なら姫路には試召戦争の日までの間、クラスのみんなに教えてやつてくれっ！」

翔平「俺は！？」

雄二「松風、お前には明久や秀吉、紅にムツツリーー」といつしょに召喚獣の動かし方を特訓してくれ。これはお前にしかできない！」

翔平「あつーなるほどなつ！」

俺は黒金の腕輪を装着している左腕を軽く上げた。

翔平「おーいみんなー、屋上に集まれよー」

そして屋上へ・・・

翔平「つーわけで・・・アーウェイクン！」

俺は教科を現国にセットし、召喚フィールドを作成した。教師が作る物より若干小さめだが、文句は言えないか・・・

翔平「まず、みんなの点数を見る、サモン！」

明久・正夫・秀吉・ムツツリーー「「「「サモン！」」「」

俺の現国得点は513点とAクラス並だ・・・当然だがな。

俺は明久の召喚獣を見た。得点は・・・24点。

ムツツリーーは明久より多少良く31点。正夫は58点とそこそこある。

秀吉は67点。

翔平「正夫と秀吉はいい・・・明久、ムツツリーーー! 何をどうした
らこんなひどい点になる!」

明久「僕はその・・・仕送りの金を有効的に使う」とを考えるのに、
頭がいっぱいなんだ！」

翔平「うるせーだまれ！」の間始めてお前が隣つて知つたけど、前からお前が隣でゲームやつたりとか、工本読む声が筒抜けなんだよ！」

明久「違うよ！それは工 本じゃなくて・・・ムツツリーーから買つた保健体育の参考書だよつー！」

マッシュルーム

翔平「……ムツツリーー、」の本、俺にも売つてくれ

ムツツリー＝「了解・・・」

翔平「まつ、まあ明久は一応保健体育の予習していたとして・・・ムツツリーーーもこの参考書売るのに時間使つているから仕方ないか・・・んじゃ4人ともつ！召喚獣の訓練、行くぞー！」

試召戦争までの5日、どうまでレベルアップするかにかかっている

な
・
・
・

第17話・バカとライダーとイヌ野郎（前書き）

奇跡的な人間「仮面ライダー、リ・ターン！」

翔平「最近勉強ばつかで体が鈍っていたんだ。ストレス解消と行くか！」

奇跡的な人間「やり過ぎないようにな・・・」

第17話・バカとライターとイヌ野郎

前回のあらすじ：

翔平「我等Fクラスは、Jクラスに宣戦布告するつー。」

ムツツリー「情報によると、Jクラスのほとんどは現国が得意らしい。」

翔平「へえーよく知つているねつ、」

ムツツリー「・・・女子のだけだけど」

翔平「つーわけで・・・ア～ウ～イクン！
まず、みんなの点数を見る、サモン！」

明久・正夫・秀吉・ムツツリー「「「「サモン！」」」

翔平「うるせーだまれ！この間始めてお前が隣つて知つたけど、前からお前が隣でゲームやつたりとか、エ 本読む声が筒抜けなんだよー。」

明久「違うよ！それはエ 本じやなくて・・・ムツツリーから買つた保健体育の参考書だよつ！」

翔平「ムツツリーニ、お前が明久に売ったその本……見せてくれ」

マッサニー「せこい・・・」

翔平「……ムツツリー、この本、俺にも売ってくれ」

ムツツリー二了解

翔平「まつ、まあ明久は一応保健体育の予習していたとして・・・ムツツリー二もこの参考書売るのに時間使つているから仕方ないか・・・・・んじゃ4人ともつ！召喚獣の訓練、行くぞー！」

明久・正夫・秀吉・ムツツリー——「オ———!」

s i d e 翔平

Cクラスとの試合戦争まで後1日・・・最初は現国の成績がほとんど1桁だったFクラスの連中も、姫路さんのおかげで20点台ぐらに行つたし、もともと観察処分者で先生の雑用係として使われている明久以外の正夫や秀吉、ムツツリーニも召喚獣の扱いになれてきたっぽいし、明久は成績を30点台までに上げた。後の1日でどこまで成績が良くなつたとしても、敵は学年で三番目のクラス・・・どうやっても勝てない・・・後初チームワークをあげるのが先決かな。でも、あのくそどもの結束力をどう高めるかが勝敗の鍵だな。

ちなみに俺と正夫、明久、秀吉、ムツツリーー、雄一、姫路さんに

美波は今、カフュ・マル・ダムールで来ている。店内はおにやんこクラブの『セーラー服を脱がさないで』が流れている。

木戸「あらっ、正夫君に翔平くんいらっしゃい。今日はプライベートで？」

翔平「はいっ、コーヒー飲もうかと・・・」

木戸「後ろの子達は、お友達？」

正夫「はい、」

木戸「そうつ、じゃあそここの席にでも座つて」
俺たちはカフュ・マル・ダムールのオーナー、木戸明さんきどあきらの行つた席に座つた。

姫路「わあー何かレトロですねー」

美波「この飾り皿つて・・・」

美波は20数個飾られてある飾り皿を見ながら言つた。

木野「それはねー、開店以来、毎年増えている飾り皿なのよ。これを見ていると若かつたころを思い出すなー」

美波「へえー」

雄二「みんな、じクラスとの試験召喚戦争まであと1日、明日だ。まずは作戦の確認をしておく。まず、松風を中心に敵陣をたたき、スキを付いて先生の雑用として使われて召喚獣の使いになれている

明久がCクラス代表である小山
「いか」
こやま
友香をたたく作戦だが、これでい

明久「ああ」

秀吉「異議なし」

ムツツリー——・・・・・同じく

美波 なしよ

姫路 - ありません

正夫・ししんしやなし

翔平、問題ないな

雄一「そうか」
俺たちはその後それぞれいろいろな飲み物を飲みおえた後、解散した。

翔平「さーて、家帰つても何にもしないし、そこらへんプラプラす
るか、」

明久「あつ、俺はいいや」

翔平「そつかじやあなた、また明日。」

暇。ものすごい暇。何にもやること無い。あつ、そういうこの先行つたら『Restaurant AGITO』あるな。そこで飯食うか。

しかし、その瞬間・・・

翔平（！）

俺の頭の中にイメージが出てきた、明久だ。明久の背後にはファンガイアがいた。

翔平「明久が危ない！」

俺はイクサリオンエイに乗り、家の方向にバイクを走らせた。

side 明久

家帰つたらまずカップめん食つて・・・それから何しようかな

ドシッ、ドシッ

変な足音が聞こえる。なんだろう？僕は振り返つた、そこにいたのは・・・

ドッグファンガイア「ライフ・・・エナジー！」

・・・ファンガイアだ

side 翔平

明久が見えてきた。・・・そうしてもう一人。イヌっぽいファンガイアだ。

襲われている！助けないと…この、修復間もないイクサ▽2で！

イクサナックル▽2「レ・デ・イ」

翔平「変身！」

イクサナックル▽2（イクサベルト▽2）「ファ・ス・ト・オ・ン
キイーン！ヒューン・・・ピロロ・・・キュイッピルルッジャキイ
ーン！」

イクサ▽2 B・M「はああ…！」

ドッグファンガイア「ぐわっ！」

明久「へっ！？」

イクサ▽-2「よしつ」

俺はイクサカリバー・カリバー・モードを取り出し、ファンガイアを
斬つた。

イクサ▽-2「とびめはこの新しいフェッスルでっ！」

俺はメンテナンスと共に新開発されたフェッスル、ブレイクフェッ
スルを取り出した。

イクサベルト▽2「イ・ク・サ・ブ・レ・イ・ク・ラ・イ・ズ・ア・
ツ・ブ」

イクサブレイク・・・それはイクサにとつてもつとも足りなかつた
格闘戦での必殺技・・・右足に高電圧をあつめ、とび蹴りで敵に攻

撃させる技。

イクサ▽2「そりや！」

ドッグファンガイア「ぐわああああ！……！」

ドッグファンガイアは、全身がステンドガラス状になり、粉々になつた。

一件落着か……

明久「あっ、あの……」

あつやべつ見られた？

明久「あなたは誰ですか？」

あつ、変身するところ見られてないんだ。こいついう場合、こいつ言つた方がいいのか……な？

イクサ「仮面……ライダー……仮面ライダーだ」

俺はイクサリオンエイに乗りその場を去つた。

明久「仮面……ライダー……」

第1-8話・現国とFFF団とAクラス（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：以下の意味を持つことわざを答えなさい

- （1）得意な事でも失敗してしまつ事
- （2）悪い事があつたうえに、更に悪い事が起きたる喻え

姫路瑞希の答え

- （1）弘法も筆の誤り
- （2）泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも（1）なら『河童の川流れ』、『猿も木から落ちる』、（2）なら『踏んだり蹴つたり』や『弱り目に祟り目』などがありますね。

土屋康太の答え

- （1）弘法の川流れ

教師のコメント

シユールな光景ですね。

吉井明久の答え

- （2）泣きつ面蹴つたり

教師のコメント

君は鬼ですか。

紅正夫の答え

（1）バイオリンの糸がすぐ切れる

教師のコメント

松風翔平の答え

教師のコメント

オングル語で答えないでください。

西村教諭のコメント

松風翔平のコメント
いいえ、間に合っています。

第1-8話・現国とFFF団とAクラス

前回のあらすじ：

雄二「みんな、Cクラスとの試験召喚戦争まであと1日、明日だ。まずは作戦の確認をしておく。まず、松風を中心に敵陣をたたき、スキを付いて先生の雑用として使われて召喚獣の使いになれている明久がCクラス代表である小山 友香こやま ゆうかをたたく作戦だが、これでいいか」

明久「ああ」

秀吉「異議なし」

ムツツリー「……同じく」

美波「ないよ、」

姫路「ありません」

正夫「いいんじゃない」

翔平「問題ないな、少し単純だがいけるだろ？」「

イクサベルトイクサベルト「イ・ク・サ・ブ・レ・イ・ク・ラ・イ・ズ・ア・ツ・ブ・」

イクサイクサ「そりや！」

ドッグファンガイア「ぐわああああ！－！－！」

明久「あつ、あの・・・
あなたは誰ですか？」

イクサ「仮面・・・ライダー・・・仮面ライダーだ」

明久「仮面・・・ライダー・・・」

side 翔平
ガラガラガラガラ ドアを開ける音

翔平「おつはーー、」

明久「ホントなんだって、見たんだよつー！」

翔平「どーしたーー」

明久「昨日見たんだよつ、仮面ライダーーなのに誰も信じてくれないんだよー！」

翔平「そつか、多分みんな今日の試召戦争に頭がいっぱいなんだよ
つ、」
さつそく言つてるぜ、仮面ライダーの事・・・あん時正体あかした
ほうが良かつたかなでもヒーローは正体明かさないからな

そして時は試験召喚戦争、開幕の時間へ

翔平「みんなつ、しまつていぐぞ――――！」

Fクラス「オオ――――！」

フィールド発生・・・、教科は・・・、

現代国語！

翔平「よしつ、ムツツリーの読みとおりだつ！みんなつ、復習（一部召喚獣訓練）の成果を見せてやれつ！」

特攻隊は、ムツツリーのデータによる、現代国語が得意なヤツを次々と道ずれにした。これだけ道が開けば進入できるだろう。

翔平「松風翔平！・・・敵陣地に武力介入するつ！」

正夫「紅正夫、翔平を援護するつ！」

明久「吉井明久！観察処分者の力、敵に見せ付けてくる！」

姫路「姫路瑞希、Fクラス代表・小山友香の首、とります！」

秀吉「木下秀吉、戦争混雑に助太刀いたすつ！」

ムツツリー「土屋康太・・・、目標を斬る、」

翔平・正夫・明久・姫路・秀吉・ムツツリー二
サモン

みんなそれぞれの召喚獣をサモンした。中でも姫路さんの召喚獣は始めてみた。西洋風の鎧に巨大剣のスタイルだ。

翔平「さて、行きますか！」

俺の一声で召喚獣たちはクラス内部へ突入した。

『Cクラス生徒 代国語534点 現代国語157点 VS Fクラス松風翔平 現

翔平「そりや！」

『Cクラス生徒 現代国語0点』

翔平「しゃつ！」

俺はカツツボースをどうなから言ったんだ。
・・・とこの世界にもいた
たバカのようだ。

しかし、状況は不利だ。俺たち精銳と雄二以外のみんなはCクラスとまともに戦えもない奴等ばかりだ。こいつ等、『リア充』たち相手だとものすごい強いのに！・・・待てよ、リア充？ そうだ！ リア充を餌にこいつ等を動かせばいいんだ！

翔平「ムツツリーーー！」クラスの中で最もリア充な奴、知っているか！？」

ムツツリーーー」・・・ 知つてゐ。×野 尾という奴がBクラスの女子と・・・

翔平「Fクラス諸君、聞いてくれ!」

Fクラス「何だ?」

翔平「Cクラスの×野 尾は、Bクラスの女子と付き合つてゐ、俺たちの敵、『リア充』なんだ!」

Fクラス「何だつて!」

翔平「みんなはこれを許していいと思つた!」

Fクラス「許すもんか——!」

翔平「そうだ! 奴等リア充を許してはならない! なら、われ等どうする? 妬むか? 呪うか? ・・・・しかし! そんなことはただの子供の嫌がらせにしか過ぎない!」

Fクラス「!」

翔平「われ等は勉強ができなければ、もてもしない! なら、われ等の使命はリア充を一人残らず! ・・・・倒すだけだ! ・・・・俺はここに对リア充異端審問会』F F F 団』を結成するつ!」

Fクラス「オー!」

俺が今作り出したF F F 団の団員は全員黒覆面と黒マントを着用し

た。

明久「へえーカツコいいな・・・」

秀吉「それより松風よ、なぜお主の召喚獣の服装と武器が変わつて
いるのじゃ？」

秀吉の言葉で気がついた。俺の召喚獣の格好は、『コードギアス反逆のルルーシュ』にでてきたゼロの着ていた服装に似たものを着ており、武器もレイピアひとつに変わっていた。これはもしかしたら・・対リア充用の武装なのか？

翔平「……そんなのははどうでもいい、それよりあいつ（このクラス代表・小山友香）の首とるぞ、」

『Cクラス小山友香 現代国語319点 VS Fクラス松風翔平 現代国語485点』

翔平「小山Uか覚悟ー」
棒読み

小山「字い間違つてゐる！」

『Fクラス 小山友香 現代国語0点』

・・・またしても俺たちの勝ちか

一方、×野尾はと言うと・・・・・・・・・・・・・・・・・・

FFF団員「死ね、リア充！マジで死ね！死ね！死ね！死ね！そし
て死ね！」

『Cクラス×野尾 現代国語0点』

FFFF 団員「やつたーーーーー！リア充は消えた！我々の勝利だ！」
ま、まあ勝ちでることに変わりは無いか・・・

翔平「われ等はリア充を嫌う異端審問会、『FFF団』だ！現実生活が充実しているものよ！われ等を恐れよ！現実生活が充実しないものよ！われ等を求めるよ！許されではならない現実生活が充実しているリア充達は、われ等が裁く！」

そして俺たちはCクラスと設備の交換をした。
の間・・・思いもよらぬ展開が・・・
しかし、それもつか

ガラガラガラガラガラ ドアを開ける音

そこには秀吉の姉でAクラスの実力者、木下優子^{きのしたゆうこ}がいた。

優子「私達Aクラスは、Fクラスに宣戦布告しますつ！」

第19話・閃光のF／獣の切り札

前回のあらすじ：

翔平「松風翔平！・・・敵陣地に武力介入するつ！」

正夫「紅正夫、翔平を援護するつ！」

明久「吉井明久！観察処分者の力、敵に見せ付けてくる！」

姫路「姫路瑞希、Cクラス代表・小山友香の首、とります！」

秀吉「木下秀吉、戦争混雑に助太刀いたすつ！」

ムツツリーニ「土屋康太・・・目標を斬る、」

翔平・正夫・明久・姫路・秀吉・ムツツリーニ「サモン

！」

翔平「そうだ！奴等リア充を許してはならない！なら、われ等どうする？妬むか？呪うか？・・・しかし！そんなことはただの子供の嫌がらせにしか過ぎない！われ等は勉強ができなければ、もてもしない！なら、われ等の使命はリア充を1人残らず！・・・倒すだけだ！・・・俺はここに対リア充異端審問会『FFF団』を結成するつ！」

翔平「われ等はリア充を嫌う異端審問会、『FFF団』だ！現実生活が充実しているものよ！われ等を求めよ！許されではならない現実生活が充実しているリア充達は、われ等が裁く！」

side 翔平

昨日、秀吉の姉でAクラスの実力者、木下優子が宣戦布告してきた。決戦は、後2日。普通の試合戦争とは違つて、一騎打ちの戦いだ。

一騎打ち・・・それは一対一で戦う事、つまり一回の戦いで全てが決まる。

なぜ一騎打ちになったかというと、集団戦ではAクラスでは勝てないからだ。タイムマンなら、俺や姫路さん・・・後たまーにやる気を出せばスゲー賢いファイリップに勝機はある。勝負は8回まである。

俺は鳴海探偵事務所に来た。昨日、ファイリップが学校に来なかつたから様子に来たからだ。

コンコン ドアをノックする音

あれっ、ドアが開いてる・・・

ガチャ・・・ ドアを開ける音

翔平「おじやましまーす・・・

誰もいない・・・どうしたことだ？俺は秘密基地みたいな部屋に入つた。そこには一人、フィリップがいた。

フィリップ「松風・・・翔平・・・」

翔平「翔太郎さんたちはどうした？」

フィリップ「翔太郎や亜樹ちゃんは・・・ドーパントに捕まつている・・・」

翔平「はつ？ 助けにいかねーの？ 仮面ライダーだろ？ お前、変身できなの？」

フィリップ「しようと思えば・・・できる。でも、したくないんだ。」

翔平「なんで？」

フィリップ「説明しよう・・・僕と翔太郎が変身する仮面ライダーWは、翔太郎の体で変身し、僕の精神が翔太郎に移るんだ。それはメモリを入れる必要がある。でも、相手のドーパントの仕業でメモリを入れるスロットが塞がれてるんだ・・・だから変身できない。」

翔平「フィリップ・・・お前、俺の質問に答えてないぞ・・・」

フィリップ「・・・」

翔平「お前は『したくない』って言ったよな、それはつまり、お前の体でライダーに変身できるんだろ？ どうして、それだけのことが

したくないんだ？」

フィリップ「・・・実は僕が変身するためには、翔太郎の体で変身する時のメモリとはちがうメモリを使わなければならぬんだ。」

翔平「いつたいどんなメモリだ？」

フィリップ「君の持つメモリは・・・生きてはいよいよね？」

翔平「当たり前だ・・・」

フィリップ「でも、僕の体で変身するのに必要なメモリは自らの意思で行動しているため、居場所だ特定できないんだ・・・」

生きたメモリ・・・でもこれがどうして変身を避ける理由につながるんだ？

フィリップ「僕がそのメモリを使って変身すると、僕の意思とは関係なく、暴走するんだ・・・」

翔平「なるほど、猛戦士バーサーカー」ていうわけか。だけど、そんなのただの言い訳にしか過ぎないぜ。」

フィリップ「！？」

翔平「お前、翔太郎さんたちを助けたいって思わないのか！？」

フィリップ「そりや・・・助けたいさ」

翔平「なら行け、もしお前が暴走したら、俺がお前を止める、それ

ならいいだろ。」「

フィリップ「しかし……」

翔平「俺は明日そこへ行くぜ、お前が来ることを信じているからな……」

・

フィリップ「ちょっと……」

俺は去つていった。

side フィリップ

翔太郎や亜樹ちゃんを助ける……君に言われなくてそつしたい
さ、でも……（－）

ファングメモリ「ギャアーアオッ！」

フィリップ「ファング！まさか、君が来るなんて……」
でも、今はこうするしかない……たとえ暴走しても、翔太郎や亜
樹ちゃんを……僕の大好きな人たちを……！

次の日

side 翔平

ここが、翔太郎さんや亜樹子さんは……いた！後変なドーパント
も！

アームズドーパント「そーて、お前達のお仲間が来るか……なあ

！」

翔平「呼ばれて、飛び出て、ジャジャジャジャーン」「

アームズドーパント「なんだお前！？」

翔平「噂の仮面ライダーでーっす！」

アームズ「フン、まあいい……」いつ等を殺すか
アームズは剣を構えて、翔太郎さんを切りうとしたそのとき……

ファングメモリ「ギャオーギャオーツ！」

ファングが剣を噛んでとめていた。

翔平「へえ、あれが生きたメモリねえ……」

ファングはアームズから後退した。そこにいたのは……

イリップ！

翔太郎「までっ！ フイリップ！ それは……！」

フイリップ「翔太郎、さい」まで悪魔と相乗りする勇気、あるかな
！？」

ファングメモリ「Fan go-！」

翔太郎「やめる！ フイリップ……」

翔太郎さんの意識とともにダブルドライバーにささつたままのジョ
ーカーメモリがフイリップのダブルドライバーに移動された。

フイリップ「変……身！」

ダブルドライバー「Fan-g - J oke -!」

「アーハーハーハンハン…!!」（シユゴオオオ!!）」（ファング変身音&発光）

「（ジャギーン）バンバンバン!!」（ジョーカー変身音&発光）

フイリップの体はたちまち仮面ライダーW ファングジョーカーに。
・

W - F 「うわああああああああああああああ!!」

ファングメモリ「A r m - F an g -」

Wファングジョーカーの右腕にファング（牙）のよじつなものが装着された。

アームズ「ぐわああああああああああ!!」

そして・・・

ファングメモリ「S h o u l d e r - F an g -」

アームズ「ぐわああああああああ!!」

ファングメモリ「A r m - F an g -」

Wは俺に攻撃しようとした。

翔平「ヨイ。」

一方Wの中ではこんなことが・・・

「フィリップ」「信じていたよ。僕を見つけてくれるって。」

翔太郎「ああフィリップ、行くぜ。」

W-FJ「命拾いしたね、あと少し遅れたら、確実に死んでたよっ」

翔平「自我が戻ったか、」

W-FJ「ああ、それより」「ああ」

Wはアームズドーパントのほうを向き・・・

W-FJ「さあ、お前の罪を数えろーーー」

ファングメモリ「Maximum-Fang-」

W-FJ「ファングの必殺技だからえーと、・・・ファングストライザーなんてどうだ?」「君に任せよう」「ファングストライザー!」

アームズドーパントのメモリは壊れた。これにて一件落着だな。あつ、俺今回全く目立つてないぞ。

Aクラスとの試合戦争まで・・・あと一日。

第20話・午前と一騎打ちと成績（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：「初めは勢いがよいが、終わりは振るわないこと」という意味の四字熟語を答えよ。

姫路瑞希の答え

竜頭蛇尾

教師のコメント

正解です。竜の頭は迫力がありますが、後ろにいくことに蛇のよつにひょろひょろとなっていくといふことですね。

土屋康太の答え

セツス

教師のコメント

あなたの珍回答に先生はいつもひやひやです。

吉井明久の答え

人生

教師のコメント

あなたはなにを言つてゐるのですか？

松風翔平の答え

影山瞬

教師のコメント
その人に失礼です。

第20話・午前と一騎打ちと成績

前回のあらすじ：

フィリップ「説明しよう……僕と翔太郎が変身する仮面ライダーWは、翔太郎の体で変身し、僕の精神が翔太郎に移るんだ。それにメモリを入れる必要がある。でも、相手のドーサントの仕業でメモリを入れるスロットが塞がれてるんだ……だから変身できない。」

翔平「フィリップ……お前、俺の質問に答えてないぞ……」

フィリップ「……」

翔平「お前は『したくない』って言つたよな、それはつまり、お前の体でライダーに変身できるんだろ? どうして、それだけのことがしたくないんだ?」

フィリップ「……実は僕が変身するためには、翔太郎の体で変身する時のメモリとはちがうメモリを使わなければならないんだ。」

フィリップ「変……身!」

ダブルドライバー「Fang-Joker!」

「アヒンヒンヒン……!」(シロ「オオオ!」)」(ファング変身音&発光)

「(ジャギーン)バンバンバン!」(ジョーカー変身音&発光)

W - F 」「 「 さあ、お前の罪を数えろ! 」 」

ファングメモリ「 Maximum - Fan - 」

W - F 」「 ファングの必殺技だからえーと、・・・ ファングストライイザーなんてどうだ? 」「 君に任せると? 」「 「 ファングストライザー! 」 」

* * * * *

side 翔平

『 私達 A クラスは、F クラスに宣戦布告します! 』

秀吉の姉、木下優子が F クラスに入ってきてこの言葉を言ってから 3 日たつか。今日が試召戦争当日。もつとも、圧倒的な戦力差あってかこっちにも多少の勝機がある一騎打ちだが。

雄一「 今日が A クラスとの試召戦争当日だ。今回の戦争は通常のものとは違い、選抜メンバーで戦つ『 一騎打ち 』 だ。メンバーは、・・・ 」

・

一騎打ちのメンバーは俺と正夫と明久とムツツリーと姫路さんと雄一と美波、そしてフイリップの 8 人だ。俺や姫路さんにフイリップは本当なら A クラスの実力を持つていてから絶対はずせないだろう。ムツツリーは（性的な意味での）保健体育では教師並の得点を持っているし、・・・ あとはまあ他の奴等よりはマシって事だけ

かな。明久は観察処分者で召喚獣の使い方は慣れてるし、雄一はまあ、代表だから出なきや いけない・・・だけ？美波は数学はBクラス並だし、・・・正夫はまあ総合的にいいのか。

みんなに分かりやすく説明するために、Fクラス選抜の点数のデータを見てもらう。

俺 - 現代国語	759点
数学	820点
物理	737点
科学	714点
古典	746点
英語	1058点（得意科目）
保健体育	762点
現代社会	771点
世界史	703点
日本史	562点（苦手科目）

正夫 - 現代国語 86点
数学 72点
物理 61点
平均 760.2点

正夫 - 現代国語 86点
数学 72点
物理 61点
科学 83点
古典 43点
(苦手科目)

ムツツリーニ				明久・現代国語										英語			
物理	数学	現代国語	平均	総合	現代社会	世界史	日本史	保健体育	英語	古典	科学	物理	数学	日本史	世界史	保健体育	英語
15点	31点	38点	41点	410点	49点	43点	25点	64点	27点	31点	64点	52点	24点	31点	57点	94点	69点

美波 - 現代国語		姫路 - 現代社会										現代社会										
		保健体育	英語	古典	科学	物理	数学	総合	平均	日本史	世界史	保健体育	英語	古典	科学	総合	平均	日本史	世界史	保健体育	英語	
物理	2	4	4	4	3	5	1	4	8.0	21	29	5	2	2	1	23	2.3	23	576	29	24	
数学	1	4	4	4	3	3	9	0	0.3	3	3	3	9	2	1	29	29	1	76	17	7	
美波 - 現代国語	6	0	9	0	2	8	2	9	点	3	点	3	9	3	9	点	点	点	点	点	点	点
物理	3	4	4	4	3	5	2	5	点	5	点	5	1	5	1	5	点	点	点	点	点	点
数学	7	4	4	4	3	5	2	5	点	3	点	3	9	2	1	3	点	点	点	点	点	点
日本史	1	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
世界史	6	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
現代社会	3	4	4	4	3	5	2	5	点	3	点	3	9	2	1	3	点	点	点	点	点	点
保健体育	6	4	4	4	3	5	2	5	点	3	点	3	9	2	1	3	点	点	点	点	点	点
英語	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
古典	1	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
科学	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
物理	1	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
数学	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
日本史	3	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
世界史	6	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
現代社会	3	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
保健体育	6	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
英語	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
古典	1	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
科学	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
日本史	3	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
世界史	6	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
現代社会	3	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
保健体育	6	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
英語	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
古典	1	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点
科学	7	4	4	4	3	5	2	5	点	2	点	2	1	3	点	点	点	点	点	点	点	点

フィリップ 本気を出したことがないため不明。

雄一・現代国語										日本史										
平均	総合	550点	平均	総合	464点	平均	総合	464点	平均	総合	23点	平均	英語	28点	平均	保健体育	英語	9点	平均	科学
日本史	日本史	54点	世界史	51点	現代社会	53点	保健体育	67点	英語	30点	古典	56点	科学	48点	物理	60点	数学	59点	雄一・現代国語	62点
平均	平均	55点	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

現在、午前10時。試験召喚戦争・一騎打ちが始まるのは午後。負ければせっかくのクラスから試験戦争で奪い去つて手にいれた今の設備も無くなる。

雄二「なあ松風、」

翔平「なんだ、雄二?」

雄二「Aクラスと戦つた後のことなんだが・・・」

翔平「・・・そうか。確かに万が一勝つても、次は普通の試験戦争しかできないしな・・・」

雄二「つーわけだ。他の奴等に言つても納得できねーだらうから今は俺とだけでだ。」

翔平「ああ分かっている。がんばるわ。」

風都高校新聞・特別号

風都高校新聞・特別号

Aクラス対Fクラス戦、本日午後に開戦！

最近、試験召喚戦争を行い、次々と勝利している2年Fクラスが何と、Aクラスに宣戦布告をしたという情報を新聞部が捉えた。最初はワンランク上位のEクラスを倒し、次はCクラスと戦い、勝利した。

ちなみにその際、リア充を憎む『非リア（充）』の味方、異端審問会、『FFF団』が誕生した。ちなみに、『FFF団』の会員は募集中なので、入会したい方は、会長の須川亮すがりょうくんに入会の許しをもらいましょう。

まさかの最下位クラスが次々と上位クラスを倒すという快挙に学園中が話題になつた。

その勝利の秘訣を探るべく、我々は調査を行つた。

調査の結果、Fクラスには代表の坂本雄一を始めに、学年次席にもつとも近い姫路瑞希、そして数学においてはBクラス並の島田美波、やる気を出せばAクラス並の頭脳を持つ左将暉、保健体育において右に出るものはいない土屋康太、そして学力は関係ないが、この学校きての稀代の美少女・木下秀吉（本人曰く、ワシは男じや）2学年きてのバカの代名詞と言われる『觀察処分者』の称号を持つ、吉井明久、そして、『觀察処分者』を越える称号『黒の完全処分者』の松風翔平。

Fクラスには少なくとも3人はAクラスのトップの成績を持つている。いったい誰が勝つのか？火蓋が切つて落とされる。

今回は翔平の過去についての話なのです。

第21話 - Episode of SHOUEI

side 翔平

一昨日の夜、俺は夢を見ていた。もしかしたら、Aクラスに昔懐かしいヤツがいるからだ。・・・霧島翔子きりしましょくが。

俺と霧島が始めてあつたのは小学4年の時、俺はこの町、風都に引っ越してきた。

翔平『ここが今日から通う小学校か、・・・職員室しょくいんしつどじだろ。転入手続きしないと。』

俺はその日、学校に来たが、職員室が分からず困っていた。俺はとりあえず近くにいた女子生徒の話しかけた。・・・霧島だ。

翔平『あの～』

霧島『なに?』

俺はしばらく見とれていた。・・・黒い長髪で日本人形みたいで、とても可愛いかったからだ。

霧島『・・・用事は?』

翔平『あ、職員室つてど?』転校してきたばかりでよく分からなくて・・・』

霧島『・・・そこの角を曲がった所』

翔平『あつ、ありがと』

そして数分後、職員室へ行き先生と共に教室へ行った。

さてと・・・自己紹介だ。

翔平『松風翔平です。趣味は（・・・）喧嘩やりまあ、色々です。ヨロシク。』

担任『・・・そ、それでは松風くんの席は霧島さんの隣の席で、その席に着席してください』

翔平『ふあーいっ、（・・・）』

俺の隣になる人は、朝あつたあの娘だ。

翔平『ああ、霧島さん・・だっけ。ヨロシク！』

俺は右手でサムズアップを決めた。

霧島『・・・よろしく。』

そして時は下校時間。俺はひとりで家に帰っていた。

翔平『ふああ～～・・・眠い・・・あつ』

俺はあくびをしながら家に向かっていた。途中、霧島が信号が赤になつていてことに気付かず、横断歩道を渡つているのが眼に入つた。

翔平『霧島！』

霧島『えつ？・・・・！』

俺の呼び声で霧島がやつと現状を理解した。そしてそのときりょう
ドトラックが霧島のところに走っていた。

翔平『危ないっ！』

俺は全力で走った。・・・・ランドセルは邪魔なのでおひしてから。

ギリギリ・・・助かつた。

ドガッ

翔平『痛つつつつつ・・・・・』

俺は電柱に頭をぶつけた。

翔平『だつ、大丈夫？』

霧島『うつ、うん。あの・・・・』

翔平『あれっ？ ランドセルどこだ？』

俺はあたりをキヨロキヨロ見渡した。ランドセルが合つたのは・・・
・・・横断歩道の真ん中・・・・

翔平『やべー！ 俺の・・・俺のランドセル――！――』

これが俺と霧島の出会い。

そしてこの一件からなのか、俺と霧島は徐々に仲良くなつていった。

そして4年での遠足では・・・

担任『では、お昼ご飯を食べてください』

クラス全員『いただきます!』

4年どころ、遠足で風都タワーの近くにある公園に来ていた。

翔平『ふう・・・』

俺は一人でオムライスを食べていた。

霧島『・・・ねえ、何でいつもオムライス食べているの?』

俺の通う学校は給食がでない、だから弁当を持っていっていかないといけない。俺の弁当の中身の大半は、オムライスだ。

翔平『好きだからって言つ理由以外に何があるか?俺はこう見えても』(自分で作った) 素晴しきオムライスの会』の会長だからなつ』

霧島『・・・ねえ、お昼一人なの?』

翔平『別にいいだろ。それに俺は1人の方が好きなんだ』

あの時はそういったけど、あれは嘘だ。当時の俺は、友達は作るのが苦手だった。

霧島『・・・なら一緒に食べよ』

そつ言いながら、霧島は俺の近くに座ると、俺にある事を言った。

霧島『・・・翔平は1人じゃないよ。1人だと思っていても、他の

人は翔平の事を思つてゐるから・・・』

そして5年生のころ、事件が起きた・・・

翔平『ぐわっ！』

生徒A『どうだ、痛いか？痛いかよー！』

生徒B『いつも遊んでいるくせによつ、テストでいい点取りやがつて！』

生徒C『お前なんか死んじまえばいいんだ！』

理不尽な理由でいじめを受けていた、5年生のころ。

生徒C『オラア！ギブか？』『オラア！なんか言えよー。』

生徒A『泣きたきや泣けよ！アン！泣けよ、泣けよ！』

・・・カス共が・・・俺は内心そう思つていた。もし俺がここで手を出したら間違いなく退学だろつ。こんなカス共のために退学になる気はわからぬかつた。

ガラッ ドアが開いた音

教室でいじめられているのか、教室に入ってきたやつがいた・・・

霧島・・・

霧島『・・・なにを・・・してゐるの・・・？』

生徒B『あ？見てわかんないかよ！？』いつがムカつくから殴つて
いるだけだよ！』

生徒A・C『へつへつへつへつへつ・・・』
・・・もういいんだ霧島。俺にかかるな。お前にまで危害が加わ
る。

霧島『・・・間違つている』

生徒A『アン？なんていったよ？オラア！なんか言つたか！アン！
？』

霧島『そんな理由で翔平をいじめるのは・・・間違つている』

生徒C『はつ？コイツの肩を持つ氣か？！霧島お嬢様よ！…えつ！
？』

生徒B『コイツのせいで俺のテストが一番じゃなくなつたんだぜ！
？こいつが居るから！…お前だつてそつだろ！？』

霧島『それでも・・・翔平をいじめる理由にはならない・・・』

霧島・・・

生徒B『立つたらさー・・・お前も死ねよつ！

奴等は生徒Aに俺を拘束させて、2人は霧島をいじめだした。

生徒A『へつ、いい眺めだな！』

霧島『キヤツ！痛い！止めて！』

翔平

生徒 A ヴ
アン? ヴ

翔平「よくも俺だけじゃなくて！霧島をいじめたな！！！」
俺は生徒Aに蹴りをかました。

くるつ
俺が生徒の方向に振り向く音

生徒会

翔平・よくも!

俺は生徒会のトリアゲントを決めた。

生徒B：おしゃれ
そんなことしたら退学だよ！？

翔平『知るか、先にやつてきたのはお前達のほうだぜ。・・・俺だけになら、まだ我慢はできた。・・・なのに！どこに霧島をいじめる理由がある！あいつがお前に何かしたか！？』

生徒B

翔平『黙つていぢやあ分からぬいだよ！··· 10秒だ··· 10秒
以内に理由を述べよ。これくらいならできるだろつ 10 ··· 9 ·
· · 8 · · 7 · · 6 · · 5 · · 4 · どうした？時間がどんどん

無くなつていくぞ！？』

生徒B 『えつ・・・・えつ・・・と』

翔平
・
・
・
4
・
・
・
3
・
・
・
2

生徒B 「アイツが！……お前の肩を……持つから……」

翔平『・・・2・・・・・1・・・0・・・。時間切れだ。俺の
判決を言い渡そう・・・死だ！！！』

生徒B『まつ待てよつ！』

翔平『先に『死ね』といつてきたのはお前だ・・・違つか?・・・
まいい、少し重すぎたな。軽くしてやろう・・・』
俺はハイキックから、ボディスラムを決めた。

翔平「はあ・・・はあ・・・はあ・・・霧島、大丈夫か?」
俺は霧島に手を伸ばした。しかし・・・

パチンツ！

翔平

霧島 『・・・こわいよ』

恐怖により、俺は手をはたかれた。

目が覚めた。Aクラスとの戦争まであと1日・・・

今日はドーパントに捕まつた翔太郎さんたちを助けないと……！

第22話 - Episode of SHOUEI ?

side 翔平

昨日の夜も、俺は夢を見た。・・・昨日の夢の続きだ・・・

翔平『よくも俺だけじゃなくて、霧島をいじめたな！！！』

翔平『あ・・・あ・・・あ・・・霧島、大丈夫か？』
俺は霧島に手を伸ばした。しかし・・・

パチンッ！

翔平『！』

霧島『・・・こわいよ』

恐怖により、俺は手をはたかれた。

* * * * *

この一件で、俺は退学になつた。・・・そして俺は新しい学校でも溶け込めずについた。そして、俺は中学1年へ・・・近所の国立の学校、『風都国立大学付属中学校』の中学生として、入学した。・・そしてなんの運命なのか、霧島も・・・この中学校に入学していく・・・

2年の春、俺は理科の授業が大嫌いだった。理科そのものが嫌いだったわけではなく、教師が嫌いだつた。そのときの教師は、後に俺への復讐の為にビーメモリを使って、ビーデーパントに変身した『港文也』だ。

ある日、俺はその教師にセクハラをしているのを見た。最初は別に気に留めずにほほつておいた。・・・変に関わると、面倒なことになると思ったからだ。ある日俺は、その理科教師が霧島にセクハラをしているのを見た。

俺が図書館でレポートのための資料を集めて教室に戻ろうとしていたときだ。教室に戻るには、理科の教室を通り過ぎる必要があった。そのとき俺は理科室から声がしてくるのが聞こえた。男と女の声・・・男のほうはすぐに港文也だと気付いた・・・女のほうの声は、なつかしい声だつた。最初は誰だか分からなかつたが、会話を聞いているうちに霧島だと分かつた。

港文也『なあなあ霧島君！？いいだろ！？ねえ！？』

霧島『止めてください！』

霧島が教室から出てきた。いつもは落ち着いていた霧島が、あんなに嫌がるのは初めてだ。いつもちゃんと着てている制服も、わずかだが乱れていた。多分あいつに脱がされそうになつたのだろう。

霧島『・・・・・』

俺と霧島の目が合つた。霧島はすぐに駆け足で教室のほうに向かつ

た。

港文也。・・・チツ！』

アーヴィは教室の中で舌打ちをしている。・・・今すぐにでも殴りたい、そう思っていた。でも、そんなことすれば退学になるのは明白だ。暑くなりすぎてはダメ・・・俺は考え抜いた末、犯罪ではあるがハッキングすることに決めた。

ポキポキ・・・ 指を鳴らす音

翔平「アイツのコンピューターの中は・・・」

翔平『アイツのコンピューターに接続……！これは！』
俺はひとつ動画をアイツのパソコンからダウンロードした。そこには・・・
翔平『翔平へっ、これは使える！これを校長のパソコンに転送すれば・・・』

次の日・・・学校の掲示板にはこのようなことが載っていた。

□
港教論、
教育職員免許
廢止

たくさんの人たちが見ている。その中には霧島もいた。

秀吉『ほつ、何事じやるつな』

明久『港先生クビだつてさ。いや、良かつた、俺あの人好きじやな

かつたから。』

俺は明久や秀吉と仲が良かつたので、よくいつしょに行動していた。

秀吉『しかし何でまたいきなり……松風はどう御づ?』

翔平『なんかしでかしたんじゃないの?』

俺は霧島を見ながら行つた。……アイツ大丈夫かな……そう思つていると、隣にいたヤツがへんなこと言つた。

隣人『なあしつているか? 港先生がクビなつたわけ? あの人プライベートでSMプレイやつていてさあ、それが先生にばれたんだってやー。』

コイツの言つていることは本當だ……港文也のパソコンに保存されていて動画には、港文也がSMプレイを受けている映像が、たつぱり1時間あつたからだ。……まあ、俺は気持ち悪くなつて、最初の5分しか見てないけど……

秀吉『じゃが誰がやつたのじゃううな?』

翔平『さあな……たぶん』の学校内にこもつて言つことは確かじやないか?』

そしてその一年後の冬……俺たち3年生はスキー合宿に来ていた。

明久『へえ、翔平けつこう上手いじゃん』

翔平『まあな、小学4年のとき、学校でスキー合宿に行ってで滑つ

たことあるか、』

明久『へえ、じゃあ俺にも教えてよー。』

秀吉『ワシにもつー。』

翔平『ああいーぜ』

午後6時・・・全員集合の時間だ。しかも学年全員集まつたかチエツクしないといけないから、遅れてきたやつのせいでの部屋で休む時間は遅くなる。

10分経過。いつまでたつても部屋で休めない。つたくいつたいたいどんなバカが遅れているんだ?そのとき、教師の声が聞こえてきた。

教師(「C組の霧島さんはまだ来ないんですか?」)

教師(「ええ・・・まずはみんなを部屋に帰すべきかと・・・」)

・・・霧島が遅れている?そんなはずは無い。あいつはいつも眞面目で、送れることなんて絶対にありえない。・・・いつたいどうして?

教師『えーでは、皆さん部屋に戻つてください。』

生徒一同『はーい』

俺はみんなが移動するどさくさにまぎれて、外にでた。・・・どいかに霧島がいるはずだ。俺は外においてあつたスノーボードをとつて霧島を探し始めた。

翔平『おーい霧島！どこだ！』

ふぶきも降ってきて、視界はさらに悪くなつた。・・・もつだめか
そう思つたとき、霧島の声がかすかに聞こえた。

霧島『たす・・・けて・・・』

翔平『霧島！』

霧島は雪に埋まつて動けない状態だつた。俺は必死の思いで霧島を
助けた。

翔平『ダメだ・・・この吹雪じや帰れない！』

もうダメか・・・そう思つてたとき、何故かちょうどいい大きさの
洞穴を見つけた。とりあえずそこに入つてみることにした。入ると
すぐに木の枝があつたので、俺は持つてきたライター（本当は持つ
てきてはダメだが）で火をつけた。

翔平『なるほど・・・今日はここで就寝か・・・』

俺はそう言いながら一重にしてきていたフリースのひとつを霧島に
着せた。

翔平『冷えるだらうから、これも着ておけ』

霧島『・・・ありがと』

俺はバックの中に入れておいたお菓子を出した。

翔平『食えよ。くわねーと明日動けないぞ。』

霧島『うん、ありがとう』

一通り食べたら、俺はカバンから布団を出した。

翔平『これかけて寝る。お前は雪の中で埋まっていたから体温が下がっているんだ。』

霧島『えっ、でも・・・』

翔平『俺はいいんだ。寒とか強いし。』

ハックション！思わずしゃみをしてしまった。だが俺は気にせず

に横になつた。

翔平『お休み』

寝ようとしたとき、霧島が俺な横に来て、俺にも布団をかけた。

霧島『・・・となり、いいかな』

翔平『好きにしろ。』

霧島『・・・ありがとう、おやすみ』

そして霧島はすぐに眠りに付いた。俺は寝返つて霧島の顔を見た。

・・・可愛い俺は改めてそう思った。

夜は明け、吹雪もやんだ。俺と霧島は合宿先に付いたのは、9時37分のこと。

田が覚めた。今日がAクラスとの戦争の日。今日のためにがんばつ
てきたんだ。

・・・なんとかなるやー。

第23話・開戦と一騎打ちとハ本勝負（前書き）

バカテスト b a k a t e s t

問題：「 気 沈」 の を埋めよ。

姫路瑞希・左将暉の答え

意氣消沈

教師のコメント

正解です。ショックを受けたり、がっかりするなどで、何か次に行動を起こしあうといった意欲などが無くなっているさま、という意味ですね。

土屋康太の答え

一氣性沈

教師のコメント

ちゃんととした言葉で回答してください。

吉井明久・松風翔平

一氣擊沈

教師のコメント

物騒な発言はよしてくれださい。

第23話・開戦と一騎打ちとハ本勝負

前回（第20話）のあらすじ：

雄二「今日がAクラスとの試召戦争当面だ。今回の戦争は通常のものとは違い、選抜メンバーで戦つ『一騎打ち』だ。メンバーは、・・・」

「・

雄二「なあ松風、」

翔平「なんだ、雄二？」

雄二「Aクラスと戦つた後のことなんだが・・・」

翔平「・・・そうか。確かに万が一勝つても、次は普通の試召戦争しかできないしな・・・」

雄二「つーわけだ。他の奴等に言つても納得できねーだろ?だから今は俺とだけでだ。」

翔平「ああ分かっている。がんばろう。」

side 翔平

現在俺たちはAクラスとの戦争のために特別に用意されたステージにいる。

俺たちFクラスは雄一を代表に俺、正夫、フィリップ、明久、ムツツリー二、姫路さん、美波が出場する。

対するAクラスは霧島を代表に秀吉の姉 優子、工藤愛子、久保利光、佐藤美穂、学年次席である野上良太郎、草加雅人、風谷真魚のAクラスの中でも別格といわれる8人が出場する。

ちなみに秀吉は・・・

秀吉「なぜワシがラウンドガールを・・・」

翔平「いいじやん、秀吉以外にだれがやるの?」

秀吉「ワシは男じや。それとムツツリー二よ、なぜさつきから写真を撮る?」

高橋女史「では両選手、前へ」

一回戦の始まり。俺たちFクラスからは美波が、Aクラスからは秀吉の姉、優子が選手として出場する。

雄一「たのんだぞ、島田。」

高橋女史「教科は何にしますか?」

美波「数学をお願いします。」

ちなみに教科の選択はAクラス、Fクラス両方とも4回ずつ選ぶ事が出来る。

優子「さつせと終わらせるわよ。どうせ勝負にならないんだから。」

美波「言つてくれるわね、ウチは数学においてはBクラス波の点数持つてゐるんだから！」

美波・優子「「サモン！」」

美波の数学の点数は213点。対する優子は・・・

美波「400点オーバー！？」

対する優子の点数は美波と200点以上も差のある451点。

美波の召喚獣は一撃で倒された。

現在 - 0勝1敗

高橋女史「次の方、どうぞ」

まあ当然の結果として、2回戦に期待しよう。2回戦はFクラスから、フィリップ、Aクラスから、風谷真魚が登場する。

高橋女史「教科は何にしますか？」

真魚「現代国語で、お願ひします。」

高橋女史「分かりました。教科で現代国語で承認します！」

真魚「試験召喚獣サモン！」

フィリップ「さてと、行くとするか・・・サモン！」

風谷真魚の召喚獣は、正装とクローケの格好に、武器は杖の姿だ。

「フイリップの召喚獣は、風谷真魚と同じタイプの服装で、白いスティックの正装に青のクローケの姿。両腕にはWファングジョーカーのアームセイバー、ショルターセイバー、マキシマムセイバーのような物を装備していた。

『Fクラス左将暉 現代国語450点 VSAクラス風谷真魚 現代国語509点』

明久「500点オーバー！？」

翔平「フイリップ、いけるか？」

「フイリップ」「大丈夫、問題ない。僕も一応400点超えているからね」

『Aクラス風谷真魚 現代国語486点』

真魚「くつ、でもっ！」

風谷真魚の召喚獣は杖からは光線のような物を出して攻撃した。

『Fクラス左将暉 現代国語432点』

「フイリップ」「なるほど・・・では腕輪の力を使うとするか・・・！」

翔平「腕輪か・・・」

明久「なあ、腕輪って何だっけ？」

翔平「お前は極上のバカか・・・・・・いいか、腕輪ってのはテストの点が単科目400点以上の生徒の召喚獣に装備されるア

アイテムだ。点数を消費することで腕輪に対応した特殊能力が使用できるんだ。でも、その特殊能力は千差万別・・・・・人によつて能力も効果も違うんだ。そしてフィリップの腕輪の効果は・・・

「
フィリップ「僕の腕輪の効果は『検索』。どんな攻撃にも弱点はある。僕の腕輪は敵の召喚獣の弱点を見抜き、それに応じて攻撃する。

s i d e フィリップ

さて、風谷真魚の召喚獣の弱点を探るとしよう。・・・彼女の武器は杖。近距離ではそのまま使い、遠距離ではビームが出る魔術師の『ごとき武器。僕の召喚獣の武器は近距離用の武器でアームセイバーとマキシマム（レッグ）セイバー、中距離ではショルターファンスが使える・・・

フィリップ「さて、いくとするか

s i d e 翔平

フィリップ「さて、いくとするか

フィリップがそういうと、フィリップの召喚獣はショルターフセイバーを投げた。それを杖で防御した風谷真魚の召喚獣にフィリップの召喚獣がアームセイバーとマキシマムセイバーを使って攻撃した。

『Aクラス風谷真魚 現代国語の点』

これで1勝1敗

そして3回戦に

相手のクラスは佐藤美穂。一方、内のクラスは

明久「いつできまーす」

翔平「負けるなら早く負けてこいよ。誰もお前が勝つとか、思つてないから」

明久「今に見てろーぜつて一勝つて見せるからな！」

一分後・・・・・・・・・・・・・・・・・・

明久「負けますた」

翔平「だらうな」

これで1勝2敗。後5回戦つて勝てるかな。まあ、俺と姫路さんは大丈夫として、あと保健体育のムツツリーー」。

次回に続く

第24話 -1勝2敗と総合教科と保健体育（前書き）

バカテスト baka test

問題：以下の間に答えるなさい。

田本の民法における結婚適齢は何歳か答へなさい。

姫路瑞希の答え

男性は18歳、女性は16歳

教師のコメント

正解です。さすがですね、姫路さん。2009年の法制審議会で、男女共に18歳に統一すべきとの最終答申が報告されており、政府方針として改正する方向のようです。改正されると、姫路さんの結婚できる日が先延ばしになってしまつかもしれませんね。

松風翔平の答え

男性は50歳まで、女性は40歳までが結婚適齢

教師のコメント

船越女史のコメント

松風翔平のコメント

吉井明久の答え

愛があれば歳の差は関係ありませんよ

教師のコメント

夢と希望をありがとうござります。

船越女史のコメント

君の言葉で希望が見えてきました。次のテストは50点おまけして
あげます。

吉井明久のコメント

やつたー！

第24話・1勝2敗と総合教科と保健体育

前回のあらすじ：

高橋女史「教科は何にしますか?」

美波「数学でお願いします。」

優子「さつとと終わらせるわよ。どうせ勝負にならないんだから。」

美波「言つてくれるわね、ウチは数学においてはBクラス波の点数持つてゐるんだから!」

美波・優子「サモン!」

美波「400点オーバー!?」

真魚「試験召喚サモン!」

フイリップ「わてと、行くとするが・・・サモン!」

『Fクラス左将暉 現代国語450点 VSAクラス風谷真魚 現代国語509点』

フイリップ「なるほど・・・では腕輪の力を使うとするが・・・!」

翔平「腕輪か・・・」

明久「なあ、腕輪つて何だっけ?」

翔平「お前は極上のバカか・・・・・・いいか、腕輪つてのはテストの点が単科目400点以上の生徒の召喚獣に装備されるアイテムだ。点数を消費することで腕輪に対応した特殊能力が使用できるんだ。でも、その特殊能力は千差万別・・・・人によって能力も効果も違うんだ。そしてフィリップの腕輪の効果は・・・」

フィリップ「僕の腕輪の効果は『検索』。どんな攻撃にも弱点はある。僕の腕輪は敵の召喚獣の弱点を見抜き、それに応じて攻撃する。」

side 翔平

現在の結果を教えよう。1回戦、美波対秀吉の姉、木下優子。教科は数学で優子の勝ちだつた。そして2回戦。フィリップ対風谷真魚で教科は現代国語。腕輪を使ったフィリップが勝ち、1勝1敗になつた。そして3回戦・・・明久対佐藤美穂。まあ結果は言わずもがな。

現在1勝2敗で負けている。4回戦。Aクラスからは知的なガリ勉、久保利光。内のクラスからはAクラス並の実力者、姫路さん。

明久「姫路さん、がんばって!」

翔平「明久が負けた分もがんばってー」

姫路「はい！」

両者前へ・・・

高橋女史「教科はどうしますか？」

姫路「総合教科でお願いします。」

高橋女史「分かりました。総合教科で承認します。」

久保「サモン・・・！」

久保利光君が試験召喚獣を召喚した。彼の召喚獣は鎧と袴の服装に、一振りの大鎌を武器にした身軽そうな姿だ。対する姫路さん召喚獣は西洋風の鎧に巨大な剣と重量系の姿だ。

そして点数。久保利光君の点数は3997点とAクラスの中でも特に高い点数だ。そして姫路さんの点数は4409点と久保利光君の得点を大きく上回っていた。・・・最も俺のほうが点数は上だがな。

姫路「行きます！」

『Aクラス久保利光 総合教科3747点』

久保「くつ、しかし！」

久保利光君がそういうと、彼の召喚獣に装備されている腕輪が光つた。

翔平「あれは、腕輪の力！姫路さん！召喚獣をいつたん引かせるんだ！いつたいなにが起こるかわからない！！！」

姫路「はい！」

久保「無駄だ・・・」

『Fクラス姫路瑞希 総合教科3513点』

姫路「えつ！？」

久保「フフフ・・・僕の腕輪の効果は『冷氣』の発生・・・逃れることは不可能だ・・・」

翔平「なるほど、冷氣か・・・至近距離でも遠距離にも対応しているとは厄介だな・・・」

姫路「私、負けません！」

久保「ほつ！」

姫路「私、決めたんです！変わるつて！」

『Aクラス久保利光 総合教科2512点』

久保「なにっ！何も攻撃は食らつてないぞ！」

久保はまた腕輪の力を使つた。しかし・・・

姫路「はつ！」

久保「なに！」

姫路さんの腕輪の力が攻撃を相殺した。

翔平「なるほど、さつきの攻撃も、腕輪の力か」

姫路「はい、私の腕輪の力は久保君の能力とは逆の『熱線』です！これでさつきの久保君の腕輪の攻撃を相殺したんです！」

久保「なるほどね・・・だが！」

姫路「負けません！」

『Aクラス久保利光 総合教科0点』

高橋女史「4回戦・・・Fクラスの勝ち！」

明久「すごいよ、姫路さん！」

姫路「ありがと『熱線』ます！」

翔平「これでまた並んだな・・・意外とよく分からぬかもな、今回のお試召戦争・・・」

高橋女史「続いて5回戦・・・用意してください！」

正夫「じゃあ行つてくるよ！」

翔平「ああ、がんばれよ！」

明久「ねえ、何で僕のときは負けるだの行つていたのに、正夫のときは普通に応援しているの！僕も普通に応援して欲しかったよ！」

翔平「それは・・・正夫はどの教科もそこそこできるし、・・・第一お前が勝つとか誰も思っていないから！」
俺はさわやかな笑顔とサムズアップを決めた。

明久「何だよそれ！それに何でみんなもうなづくわけ！」

雄二「明久黙つていろ。今はくれないの試合を見ていたいんだ。」

明久「・・・。」

翔平「内のクラスからは正夫で・・・あつちは草加雅人か・・・正夫！気をつけろよ！あいつは久保利光以上の学力を持つていてるぞ！」

正夫「分かつた！」

高橋女史「教科は何にしますか？」

草加「現代社会でお願いします」

高橋女史「分かりました。承認します！」

正夫・草加「サモン！」

現代社会・・・これはついている！現代社会は正夫のもつとも得意な科目！でも相手が現代社会にしたということは相手もそれなりに高いということじやあ・・・

草加雅人の召喚獣は、ギリシャ文字の『（カイ）』をモチーフにしたような姿をしていた。武器は銃と剣が合わさったような『カイ

『ザブレイガン』に似ていた。

『Fクラス紅正夫 現代社会193点 VS Aクラス紅正夫 現代社会346点』

草加「俺は現代社会がもつとも苦手な科目でね・・・君の得意な教科にしてあげたよ・・・」

正夫「戦う気はないのか?」

草加「まさか・・・俺はただ君に点数ではなく、召喚獣の操作の腕で戦おうと思ってね・・・」

正夫「すごい自身だ(・・・)ねつ!」

『Aクラス草加雅人 現代社会325点』

草加「そんなものか・・・つまらないね・・・」

正夫「なに!」

『Fクラス紅正夫 現代社会0点』

高橋女史「Aクラスの勝ち!」

正夫「そんな・・・」

翔平「まあまあ」

これで2勝3敗だ。次が6回戦・・・ムツツリーーなら何とかなる

か
！

高橋女史「6回戦、用意！教科は？」

ムツツリー「保健体育で・・・・・」

6回戦は保健体育において（性的な意味においての）天才的な知識を持つムツツリーニ。相手は工藤愛子だ。

高橋女史「では、開始」

工藤「サモン！」

ムツツリー——「・・・・・サモン・・・・」

『Aクラス』工藤愛子 保健体育446点

工藤 一
行くよ!

工藤愛子の召喚獣がムツツリーーの召喚獣に攻撃を仕掛けた。しかし

△ツツリー＝「・・・ 加速」

ムツツリー二の召喚獣は腕輪の力を使い、目にも留まらぬ速さでエ
藤愛子の召喚獣を攻撃した。

『Aクラス工藤愛子』保健体育0点

ムツツリー——「……………加速終了……………」

そしてムツツリーニの保健体育の点数は・・・

『Fクラス土屋康太 576点』

明久「ムツツリーニスゲー！俺の総合点数より高いよ！」

翔平「お前どんだけ低いんだよ！」

現在3勝3敗。内のクラスで残つたのは、俺と代表の雄二。Aクラスは学年次席の野上良太郎と、学年主席にしてAクラス代表の霧島。

続きを読む

第25話・俺と霧島との回戦・・・(前書き)

バカテスト b a k a t e s t

問題：以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい

『光は波であつて、（ ）である』

姫路瑞希の答え

粒子

教師のコメント
よく出来ました

土屋康太の答え

寄せて返すの

教師のコメント

君の回答には、先生はいつも度肝を抜かれます。

吉井明久の答え

勇者の武器

教師のコメント

先生もRPGは好きです。

松風翔平の答え

天の道を往き、総てを司る！

教師の「メメント

そんなことをすればやんせつがこなせました。

第25話・俺と霧島との回戦・・・

前回のあらすじ：

高橋女史「教科はどうしますか?」

姫路「総合教科でお願いします。」

高橋女史「分かりました。総合教科で承認します。」

久保「サモン・・・！」

久保「フフフ・・・僕の腕輪の効果は『冷氣』の発生・・・逃れることは不可能だ・・・」

翔平「なるほど、冷氣か・・・至近距離でも遠距離にも対応しているとは厄介だな・・・」

姫路「はい、私の腕輪の力は久保君の能力とは逆の『熱線』です！これでさつきの久保君の腕輪の攻撃を相殺したんですね！」

草加「現代社会でお願いします」

高橋女史「分かりました。承認します！」

正夫・草加「「サモン！」」

『Fクラス紅正夫 現代社会193点 VS Aクラス紅正夫 現代社会346点』

草加「俺は現代社会がもつとも苦手な科目ですね・・・君の得意な教科にしてあげたよ・・・」

『Fクラス紅正夫 現代社会0点』

工藤「サモン！」

ムツツリー「・・・サモン・・・！」

『Aクラス工藤愛子 保健体育446点』

工藤「行くよ！」

ムツツリー「・・・加速」

『Aクラス工藤愛子 保健体育0点』

ムツツリー「・・・加速終了・・・」

明久「ムツツリーースゲー！俺の総合点数より高いよ！」

翔平「お前どんだけ低いんだよ！」

現在3勝3敗。一回戦・美波 対 優子でAクラスの勝利、二回戦・
フィリップ 対 風谷真魚でFクラスの勝利、三回戦・明久 対
佐藤美穂、四回戦は姫路さん 対 久保利光でFクラスの勝ち、五
回戦で正夫 対 草加雅人でAクラスの勝ち、そしてさつきの六回
戦、ムツツリーー 対 工藤愛子でFクラスの勝ち。そして残った
2回戦に出場するのは俺と雄二、Aクラスは学年次席・野上良太郎
と学年主席・霧島のツートップだ。

そして7回戦、出場するのは雄二と学年主席の霧島だ。

翔平「代表同士の戦いって、普通最後じゃないの？」

雄二「別にいいだろ。それより教科はどうすつかな。」

翔平「なあ、これはどうだ。」

俺は雄二に俺の提案をみみうちで教えた。

雄二「なるほど、その手があるな。」

高橋女史「教科はどうしますか？」

雄一「数学の限定テストをお願いします。内容は小学校レベルで。 方式は100点満点の上限で。」

明久「どうこうことだよ！」

翔平「単純に考えてみる。俺たちは最低レベルの集団、『Fクラス』だぜ？ そいつ等がガチでAクラスと戦つて勝てたのはまぐれとしか言いようが無い。そこで俺が提案したのは、雄一の点数じゃ霧島には勝てない、だから小学校レベルのテストで戦つて引き分けしておいて、8回戦で俺が勝つのが一番いいっていう作戦なんだ。」

俺がそうこうと、一同が『なるほど』、と納得した。

翔平「そもそも試験召喚戦争ってのはあくまでテストの点数を用いた戦争だ。教師が認めさいすれば召喚獣で戦わなくてもいいのさ。」

高橋女史「分かりました。ではテストを用意します。」

翔平「それに小学生のテストついたら基本中の基本だ。どちらかが気を抜いてやつてひとつでも間違いがあれば、じつちの勝率はぐんと上がるものさ。」

高橋女史「では、対戦者は教室に集合してください。」

そして数学の限定テストが始まった。

ちなみに小学生の数学（算数）で行つたこんなものだ。
問・円周率の求め方を求めよ。

答・ \times^r の2乗

といったところだ。

そして結果発表

高橋女史「結果を発表します。Aクラス霧島翔子、100点!」

翔平「まあ、当然だな」

高橋女史『Fクラス坂本雄一、97点で、Aクラスの勝ち!…』

Fクラス「はああああ!…!…?…?…」

翔平「雄一いいいいいいいいいいいい!…!…貴様、どうどう!…!…あああああ!…!…!…」

雄一「ワルイ…・・・・・・・・・・」

翔平「まあいいさ、俺が勝てばいいだけの話…・・・」

高橋女史「では、8回戦の用意を…・・・」

翔平「ふあー!」

高橋女史「では教科は…・・・」

良太郎「世界史でお願いします。」

高橋女史「分かりました、承認します!」

翔平・良太郎「「サモン…！」」

『Fクラス松風翔平 世界史703点 VS Aクラス野上良太郎
世界史709点』

翔平「なるほど…点数はほぼ同じか…となるとこれは…」

召喚獣の操作による戦い！

良太郎の召喚獣は…赤色の陣羽織に日本刀の姿だ。あれは点綴的な接近戦型。遠距離に対応できる俺の召喚獣には無意味！

翔平「はあ…！」

『Aクラス野上良太郎 世界史535点』

良太郎「うわっ…」うなつたら！

良太郎の召喚獣の姿が変わった。青みがかつたスーツに、餌をつけところが刃になっている釣竿のようなものを装備している。

『Fクラス松風翔平 世界史438点』

翔平「なんだ？あれも、腕輪の力なのか？」

良太郎「うん、僕の腕輪は戦いに応じて武器と（おまけに）服装を変えるんだ。これによつてあらゆる戦闘に適応できる、」

さらに良太郎の召喚獣の姿は着物に斧の姿に…

翔平「いつまでもやられるか！」

俺の召喚獣はハンドガンで良太郎の召喚獣攻撃した。

『Aクラス野上良太郎 世界史418点』

良太郎「くつ、でも！」

良太郎の召喚獣の姿はヒップホップ系の服にハンドガンになつた。

『Fクラス松風翔平 世界史406点』

翔平「負けるか！」

『Aクラス野上良太郎 世界史176点』

良太郎「負けない！」

良太郎の召喚獣の姿は最初のものに戻つた。

『Fクラス松風翔平 世界史142点』

そして激闘の末・・・

『Fクラス松風翔平 世界史83点 VS Aクラス野上良太郎
世界史0点』

高橋女史「8回戦、Fクラスの勝ち！よつて結果は4対4とし、9
回戦を始めます！」

翔平「9回戦？」

高橋女史「9回戦は、そのクラスの実力者が出場することになります。ではAクラスからは霧島さん、Fクラスからは松風さん、お願ひします。」

翔平「また俺か・・・まつ、俺しかアイツと太刀打ち出来ないか・・・」

霧島「・・・」

翔平「久しぶりだな・・・お互いフェアに行こうぜ、」

そして次回に続く・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2575x/>

風都国立大学付属高等学校（仮）

2011年12月5日21時52分発行